



尾張名所圖會

後編

三



所加  
藏齋

齋

石  
齋  
印

石齋印

尾張名所圖會後編卷之三

目錄 春日井郡上

- |        |         |         |       |
|--------|---------|---------|-------|
| 春日井郡解  | 清須      | 同総圖     | 同古城跡  |
| 犬追物図   | 五條橋     | 牛頭天王社   | 花火図   |
| 山王権現社  | 正覚寺     | 清涼寺     | 上畠神明社 |
| 家傳夢想丸  | 琉球人休息の図 | 小山田紀内の話 | 御樹木屋敷 |
| 御園     | 中島宮     | 總見院     | 朝日殿宅址 |
| 浄念寺跡   | 朝日柳     | 落合里     | 宮重大根  |
| 獨活     | 稚川菽     | 白木橋     | 同故事   |
| 阿原天神社  | 堀江觀音堂   | 土器野里    | 新川橋   |
| 駿河塚    | 中河原桃林   | 下河原笋    | 二ッ松   |
| 庄内川堤櫻樹 | 小田井城跡   | 宝國寺     | 神明社   |
| 西方寺    | 小田井疊表   | 琵琶塚     | 五社明神  |

願王寺	東雲寺	星大明神社	大聖院
法源寺	長善寺	東岸居士舊跡	新福寺
圓福寺	伊奴神社	稻生合戰	稻生堤
伏越松	觀音寺	丹羽長秀	多奈波太神社
越智氏城跡	林泉寺	綿神社	鍛冶屋敷
平手政秀宅址	小僧菴菽	安食氏旧居	聖徳寺
乘圓寺	成願寺	味鏡村	味鏡神社
天永寺	陰陽師元大夫	大井神社	瑞應寺
蛇池	佐々内藏助城跡	洗堰	大野木堤
大乃伎神社	塙宗悦宅址	小高園天神社	高田寺
平田寺	黒池龍神社	松元院	十所社
山王社	菅天神社	法成寺廢址	徳重里
林證寺	志賀田天神社	仁昌寺	訓原神社

熊野社	熊野社	日光寺	牟都志神社
常安寺	物部神社	春日井原	西行堂山橋
外山神社	妙藏寺	片山神社	龍徳寺
坂庭神社	多氣神社	尾張神社	栗田地神社
栗崎氏保童圖	連理木	木津川	小木里
宇津宮社	船津社	賢林寺	正眼寺
小牧驛	小牧山	同城址	神明社
玉林寺	西源寺	八幡社	實々天神社
龍音寺	岩崎山	丹羽氏家傳妙劑	二重堀岩跡
田縣神社	主惠郷	小松寺	大泉寺
白山社	非多天神社	児權現社	

春日井郡上

當郡の愛智郡の北に並ひ國の中央より良の方一長く美濃三河の國界にむまり郡中の村里田畠豐饒なりて東に三河の賀茂郡に隣り南に愛智郡とまじり西に海東中島の二郡に接し北に志保丹波郡と堺とす其より東の... 美濃の可兒郡と岐郡小豆郡とむじり春日部春日部ともむじり... 延喜以前の頃より今のゆく春日井の文字を用ひたり

三代實錄の貞觀十九年の記  
延喜民部式和名抄盛饒抄  
等に春日と記し延喜神名式拾芥抄梅華元冬藏  
三國傳記等に春日部とむじり共小豆郡なり

元來國內の大郡より山田郡の廢より後其村里多く當郡に屬す今に廣大なる郡とむじり

清須 當郡中西南の... 南の中央あり中昔より武家守護の居城の地より清須府とむじり... 多きを清須府の後、駿舎の... と東海道より美濃路へ通る宿驛なり旅

宿休茶屋等軒... 此町並より西國中國九州四國の諸産とむじり京都大坂奈良伏見長崎等の友人... 上下の輩、此地を經ざるなく又 勅使院使の公卿諸親王御門主... のいも尊さ御方も 此地と過りし諸國の名人神佛とあはれの貴賤わら、朝鮮琉球の聘使... 足とむじり... 實小繁華の一都會なりて境地対ふ廣く當郡及び中島海東の三郡小豆郡十二村合して町並も數十町あり清須より... 号し神鳳抄し清須御厨... 古今六帖の藻の奇に 藤より今もあはれ... 地名といひける... 清須のまじり思

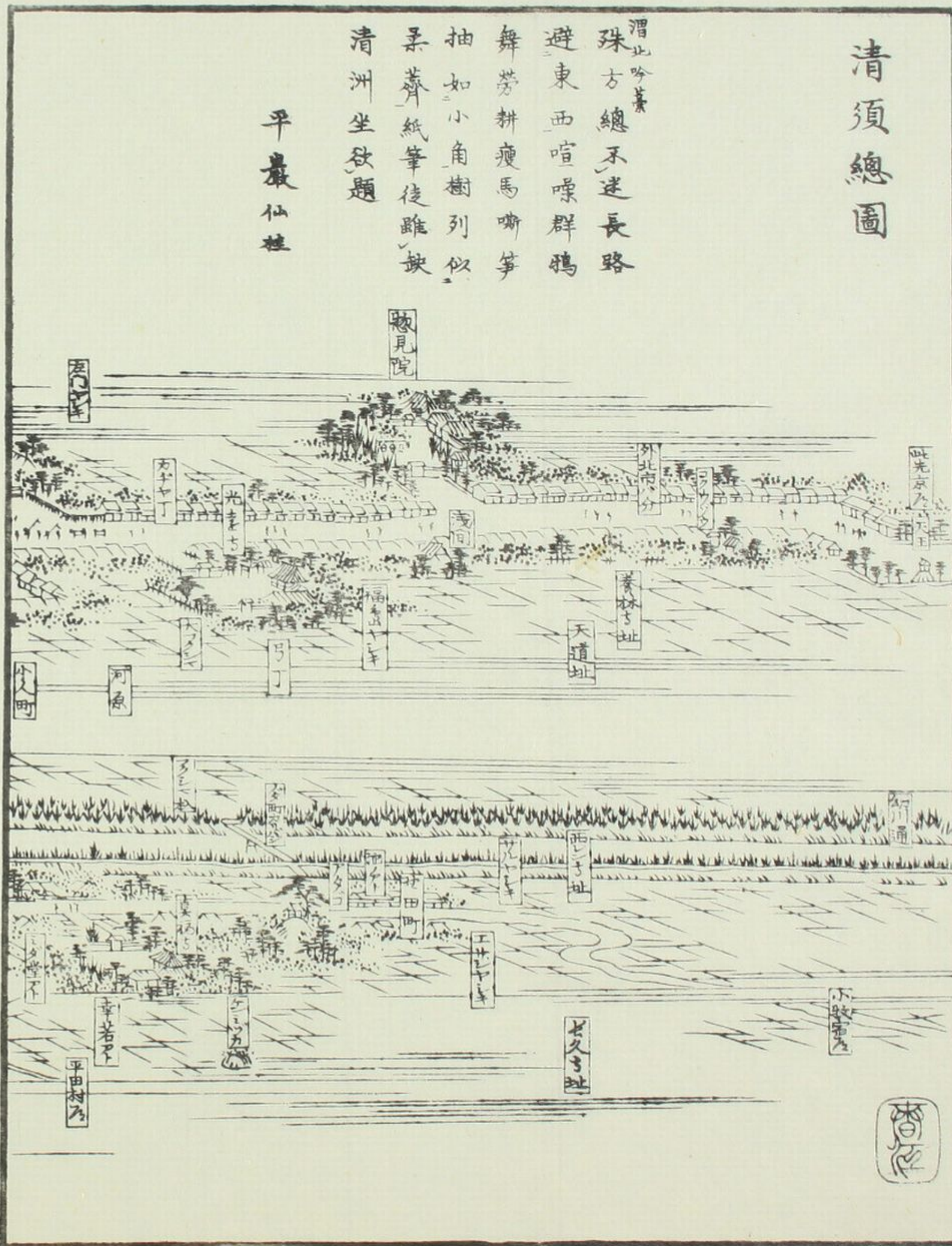
慰草

神... 達ひ... 清須に... 類ひく國郡の改より... 一

清須總圖

清須吟葉  
 珠方總不迷長路  
 避東西喧噪群鴉  
 舞勞耕瘦馬嘶箏  
 抽如小角樹列似  
 柔薺紙筆徒雖缺  
 清洲坐飲題

平巖仙桂



北擊南侵隘  
 八荒禍機誰  
 料伏蕭堵荒  
 墩僅禁村童  
 牧曾是君家  
 閑馬場

菅茶山

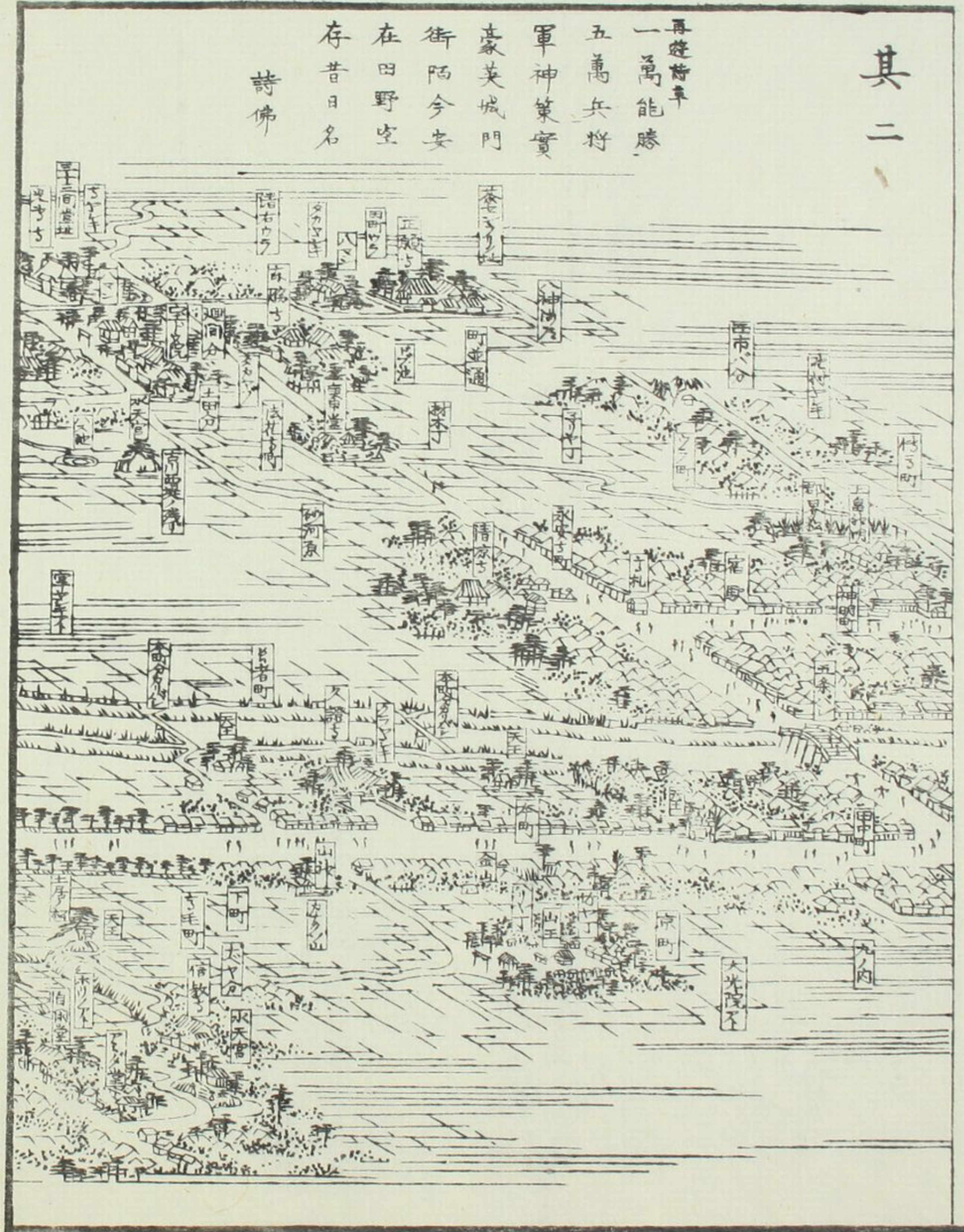
城跡のあつたところの  
 ぐらぐらとせりつゝ  
 あつたところの  
 ぐらぐらとせりつゝ  
 けいけい  
 外形の  
 けいけい  
 あつたところ  
 野堂



其二

再遊新車  
一萬能勝  
五萬兵將  
軍神策實  
豪華城門  
街陌今安  
在田野空  
存昔日名

詩佛



老鴨

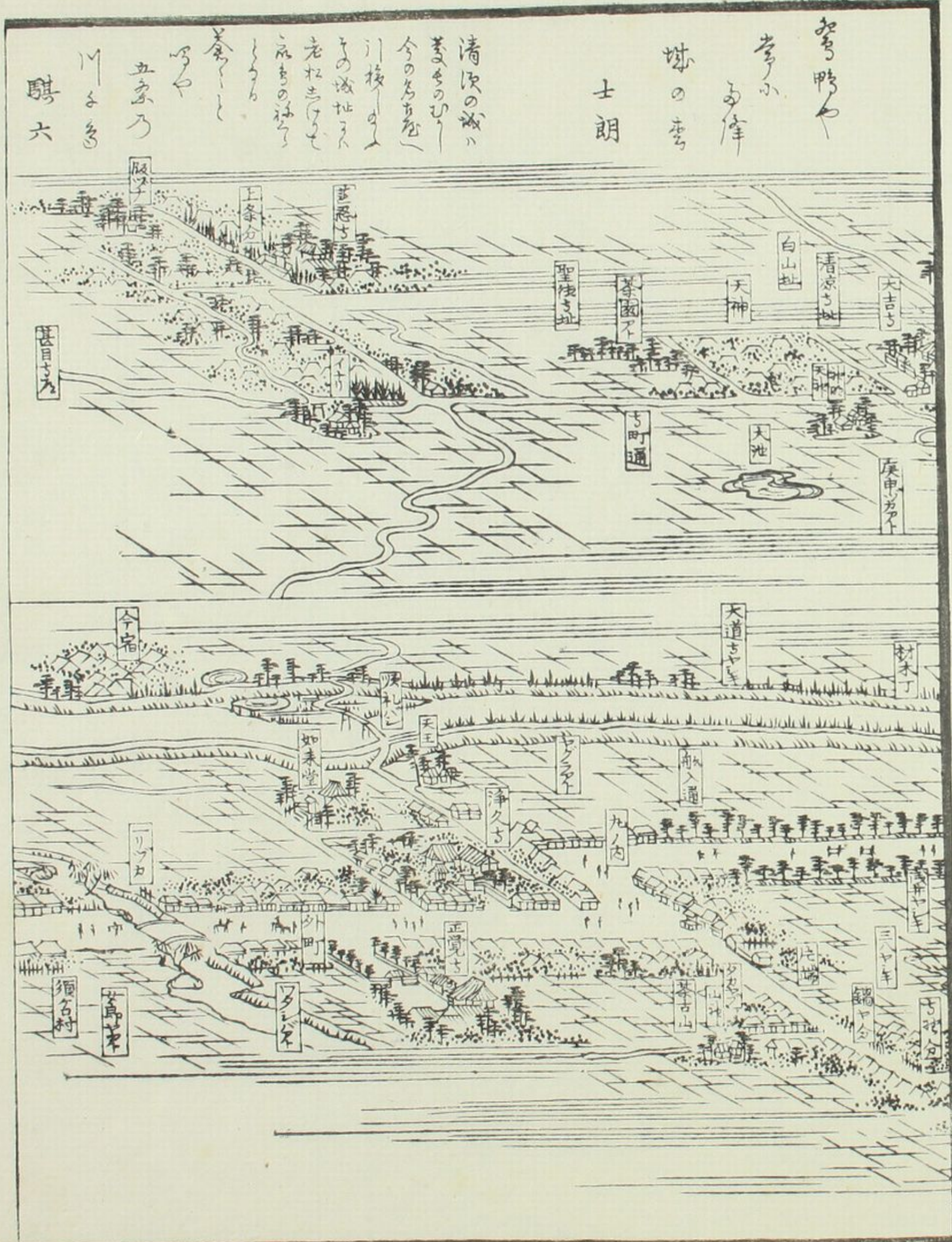
孝小

あ津

城の香

士朗

清次の城  
美多のひ  
今の名あり  
川校のい  
老ねしひ  
ふきのゆ  
さうり  
さうり  
立まろ  
川さき  
騏六



のちの朝暮にまはれしは門前をあるやけり都の事なれば  
其も十日をりやけりしにさう度敷の南面と記すはけりし  
事よりぬ倍四五人にあつたけりし事なればけりし事  
見ゆゆと伺ひけりし事なればけりし事なればけりし  
事なればけりし事なればけりし事なればけりし事  
あはれはけりし事なればけりし事なればけりし事  
らるるけりし事なればけりし事なればけりし事  
まうけりし事なればけりし事なればけりし事  
のまうけりし事なればけりし事なればけりし事  
ゆる言の事なればけりし事なればけりし事  
まうけりし事なればけりし事なればけりし事  
まうけりし事なればけりし事なればけりし事  
まうけりし事なればけりし事なればけりし事  
まうけりし事なればけりし事なればけりし事

更けりし事なればけりし事なればけりし事 正徹法師

まの事なればけりし事なればけりし事 全

宗長手記  
清次五条川の西畔にありし古松樹数株あり三重塔のわたりあり  
緑陰花ひまわりありし事なればけりし事なればけりし事  
緑陰花ひまわりありし事なればけりし事なればけりし事  
道の流れありし事なればけりし事なればけりし事  
道の流れありし事なればけりし事なればけりし事  
道の流れありし事なればけりし事なればけりし事

宗長手記  
清次五条川の西畔にありし古松樹数株あり三重塔のわたりあり  
其境地甚度大なりし事なればけりし事なればけりし事  
天守臺とてありし事なればけりし事なればけりし事  
中名をなせりし事なればけりし事なればけりし事  
守護斯波右兵衛督義重とてありし事なればけりし事  
人を置守とてありし事なればけりし事なればけりし事  
足利式部太輔義國の二男治部少輔義康九代の孫左衛門尉  
家氏の三男右近将監宗家の嫡孫修理大夫高経足利尊氏の一族

夏やけりし事なればけりし事なればけりし事  
卯の事なればけりし事なればけりし事  
あはれはけりし事なればけりし事なればけりし事  
あはれはけりし事なればけりし事なればけりし事  
あはれはけりし事なればけりし事なればけりし事  
あはれはけりし事なればけりし事なればけりし事  
あはれはけりし事なればけりし事なればけりし事  
あはれはけりし事なればけりし事なればけりし事



ある官軍に敵對し奉りて建武年中越前國少く新田義  
貞父子を討取し功あり當ふ及び越前も遠江半國を賜  
りり青生尾張守と名あり其子官領左衛門佐義將此義  
重の父之義重父子哥人として新續古今集等小入り義重の子  
治部大輔義淳其子治部少輔義郷其子治部少輔義健其  
子左兵衛督義敏まで代り官領斯波氏と称し當國及び越前  
並に江の守護として其身に在る家人と當ふ下りて國勢と  
りり行りて其次のち漢治部大輔義廉他家より斯波の家  
を継ぎ義敏と不和としてやもよんが合戦も及びんとす  
文明九年義廉入部して此清須の在城す夫より左兵衛佐  
義寛左兵衛佐義達治部大輔義統まで當味ありて家老  
織田大和守入道常祐及び其弟因幡守等恣に國政と執行  
せしゆ名威權守護もゆるり至家とあはれりや天文の

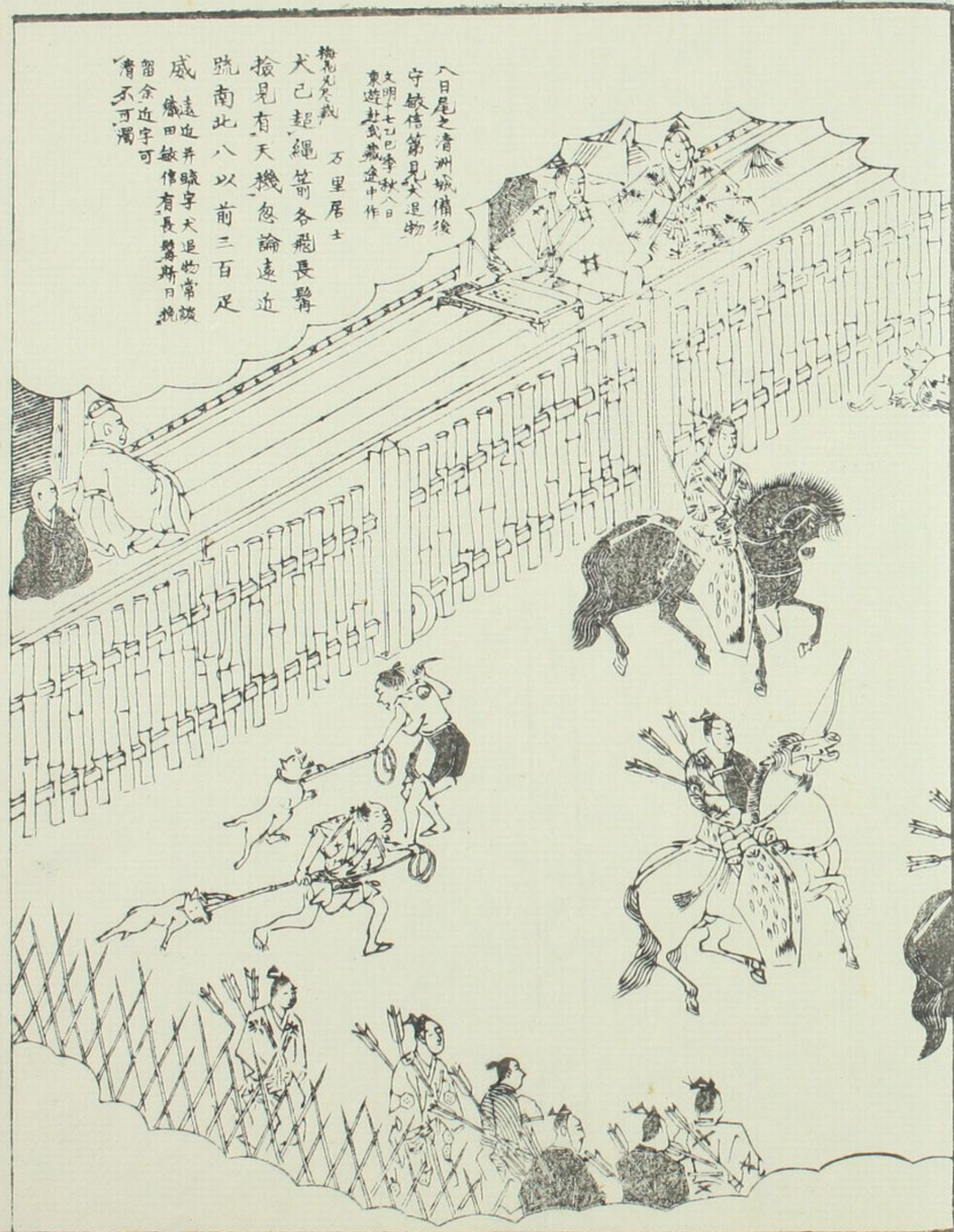
ころに常祐死去し其妻彦五郎信友家督と継ぎて多く  
暴威ありて天文二十三年義統の家人梁田弥次右衛門那古  
野弥五郎等謀りて信友と誅せんとし其頃義統は當城のなか  
小居住りて信友の次の廓小居たり弥次は等信長公と調  
り合せ七百餘騎少く當城小押寄り信友と攻りて信友が  
家人多く強剛として本意と得ず一旦和として退散しぬ  
かりけしは彦五郎信友と君義統と恨り同年七月十日義統  
の嫡子岩菴丸堀江村一川狩に出られしが家人多く供りて城内  
數人小示し急小本丸取り攻討りて不意と討て森刑  
部少輔同掃部丹羽左近等の今内外に走りたり防戦せり  
ども皆討取らして義統とくろり老臣三十四人自殺す岩菴丸  
川也として此逆乱として直に那古野小進行信長公と頼り



織田備後守犬追物と見し図



八日尾之清洲城備後  
 守敏倍第見大足物  
 文明十七日季秋八日  
 東遊赴武藏金中作  
 柳元次載 万里居士  
 犬已起繩箭各飛長鬚  
 檢見有天機忽論遠近  
 疏南北八以前三百足  
 威遠近并職字大足物常談  
 鐵田敏傳有長鬚斯日機  
 留余近字可  
 清不可濁



其二



先天王坊へ入ると泰く色らふりて信友主君と裁く備前備前を押  
りて信長公其不義とあり日ありて軍兵とていけ逆謀  
の張本人織田三位房等八十餘人と討取多し一うも折れり  
駿河の今川家より當國と犯し軍勢と差向ふその防ふ  
際うして其年いしるぬ翌年二月信友の家老坂井大膳信  
長公に和と乞ふ公ゆるし其の叔父織田孫三郎信光を備  
前備前の南の丸に移し信友と西守護代と称し和睦とのいぬりて  
四月十九日信光入城あり翌廿日大膳が兄大炊助と城中めて  
誅戮りしむる大膳を逃去り彦五郎も叶りしと思ひて  
近習五六人召連終と出むし所を善く相圖の狼煙と上り  
信長公那古野より大軍を押し寄終り信友と誅伐りしぬ  
治部大輔義銀と稱しりて補佐りし永禄四年義銀不了

族をわしひ信長公と亡びしむるも公よりい恩を  
次の愚将國家と治るるにわしずし義銀と追拂ひ吉良石橋  
と追放りしり足利武衛の高家名にむ断絶す同年の  
秋信長公上洛りし尾張の守護職を補し威權をいあし  
あ母も歴代何とも武切多し中に信長公の母も軍四も振舞ひし公の母は  
古屋合戦記に土田氏の女と云ふ織田長清の携へ織田系譜の母土田下総守源政久女と云ふ  
り古屋合戦記に天文三年正月信長此城備前備前を治るる同四年同郡古渡村に新城と  
築きし源忠朝若君のあな名古屋の城を成長りしと云ふ織田真紀に築城於那  
古野使公謹略居之と云ふ同紀の天文十年公自稱上総介と云ふり受領の勅裁も叙爵  
もいされし私名ありしり其頃の武家のあつたり又正四位下彈正忠任  
りしり年月も洋の天正二年甲戌三月十八日参議に任り同日従三位に叙す  
同三年乙亥十一月四日權大納言同七月右大将備前備前を治るる同四年丙子十一月十三日正三位同廿  
一日内大臣同五年丁丑十一月十六日従二位十一月廿日右大臣同六年戊寅正月六日正二位同  
四月九日兩職と辞し同十年六月二日京都本能寺にて先秀のいふ自叙の日記勅り  
夫政大臣従一位と賜りしり大宰備前備前を治るる先秀のいふ自叙の日記勅り  
其ころ備前を治るる武切のいふ私治元年四月那古野の城より移されり同二年  
八月福生合戦同三年四月武蔵を信行不義の事ありしり備前を治るる  
一む同年三月武蔵の高家及び同義重と戦ひ討るる三よりか勢を乞ふ公本多川と  
越前侯にむしりし其所の里人殺しり錢瓶と垢出りしりしに集りし



清洲城墟

長りよりほくせしひさせ  
石ふくと共ふゆりて  
くちせきりて

吉田貞

くちりたる  
とれあといまハ  
大寺塔の  
古郷とこそ  
いふ屋うた  
大鐘真守



吉田貞  
關

代とて強て  
とれをかきハハ  
柔えり  
大城のちとれ  
ちりのむく立

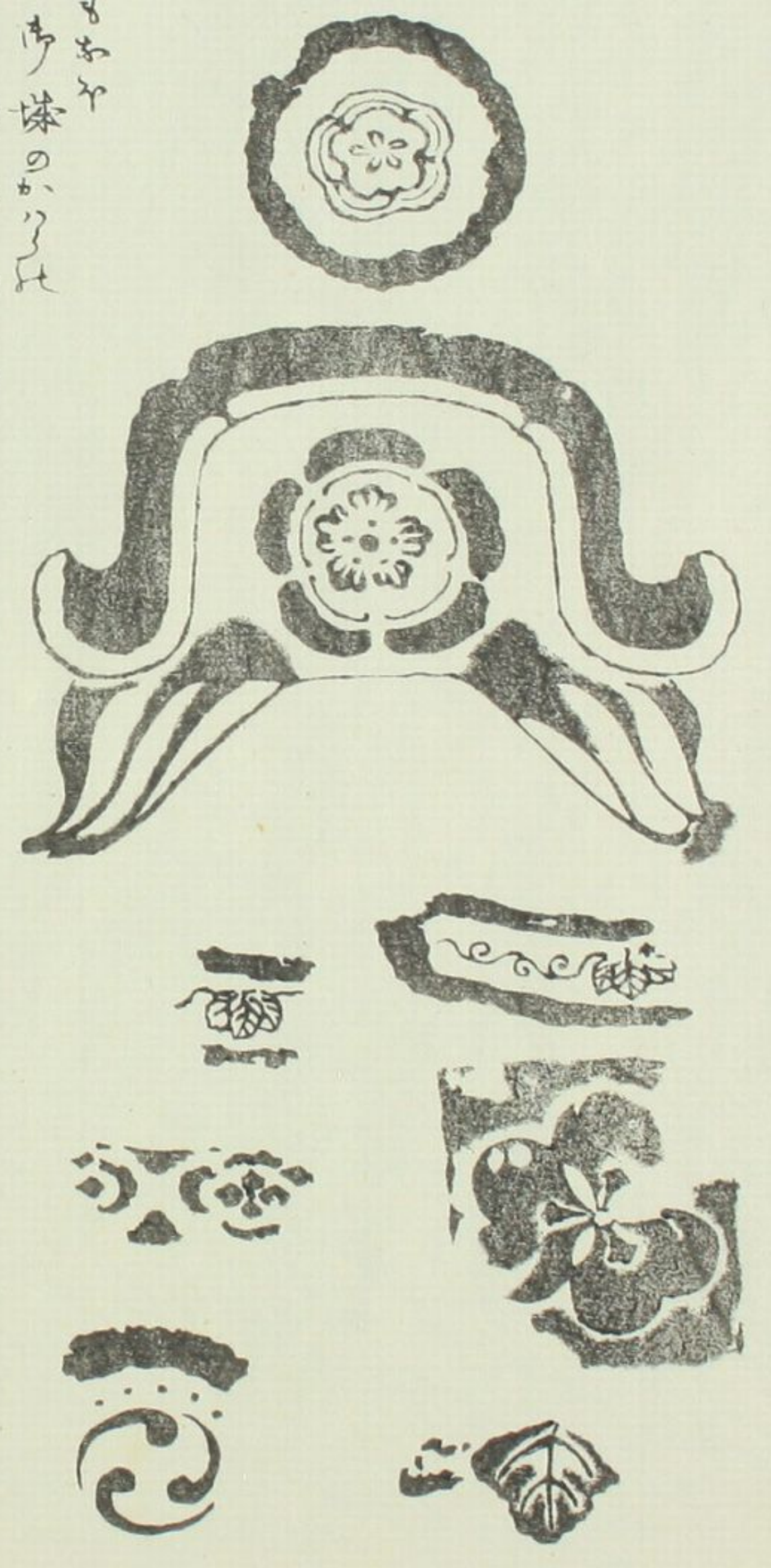
林正明



私見以爲記纂以銘曰  
 英青人代已改城郭亦  
 文魂歸鶴爲何如壘  
 久髮鬢二手或視來倚歎  
 伊壬戌夏  
 拙五松唯興  
 堂月乎兩霸之  
 隱其友樹地  
 士齊藤謙撰  
 鶴昔委  
 乎人牙荒  
 其徒餘

清洲古城殘瓦 正面摺縮圖

高松館藏



今も亦や  
 少塔のかり  
 かり松の橋におもひ  
 名をてかれし女  
 谷江

五條橋

同所五條川小堀の街道の板の府下の五條橋の糸に之を改むるに  
 川第も推川通多とてはとらて五條川もよる  
 以川不臭難多く美味うて世人大か羨歎す

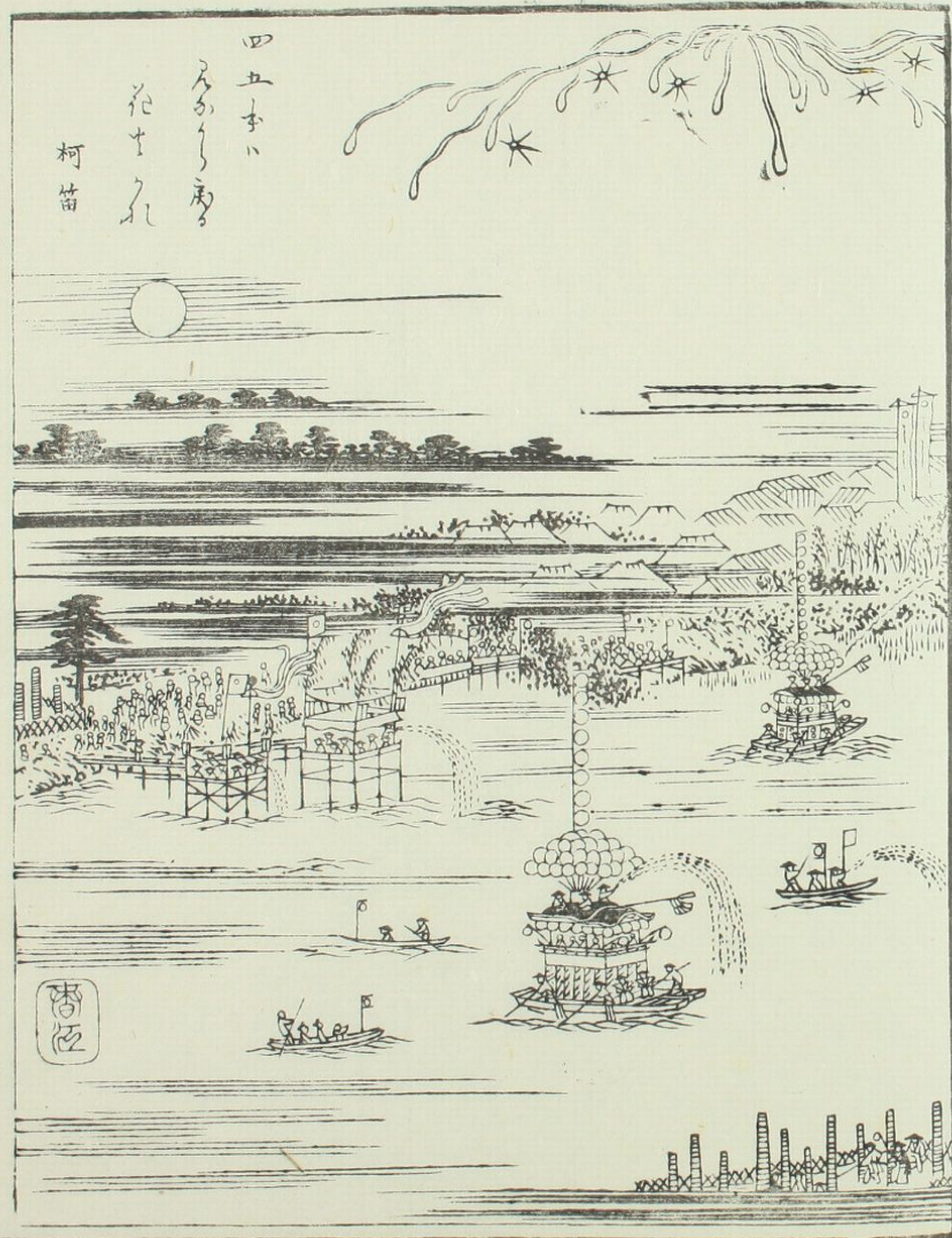
末をくめりてあれ清洲川らしきとていふにたりしん 本居春庭

牛頭天王社

五條橋の西北にあり

當社幼清の年月志をばとて

とて清洲の四天王とてありしは清くはれが当城下の  
 の繁業をうりて頃の幼清もや其四天王とて今清洲を町  
 五條川岸外北市場海通堀朝日村のうらと當社うりて  
 たる大社少いゆゑに例年六月十四日の祭りに當国中一の奇  
 觀ありて稚川の兩岸小花火の大苗と數十を設け花火方東  
 西の岸より川中へ水橋のおびれとて作りおてをくに集會  
 一其業とては多家の四半吹流の風ふりてつゝ船翻りて又  
 車樂の船二艘を川中小浮べりてひまをりて凡津島の車樂に  
 似りそのおかりとて花火の作りお所せとてまで立直りて花火の



四五才ハ  
 花々々々  
 柯笛

香

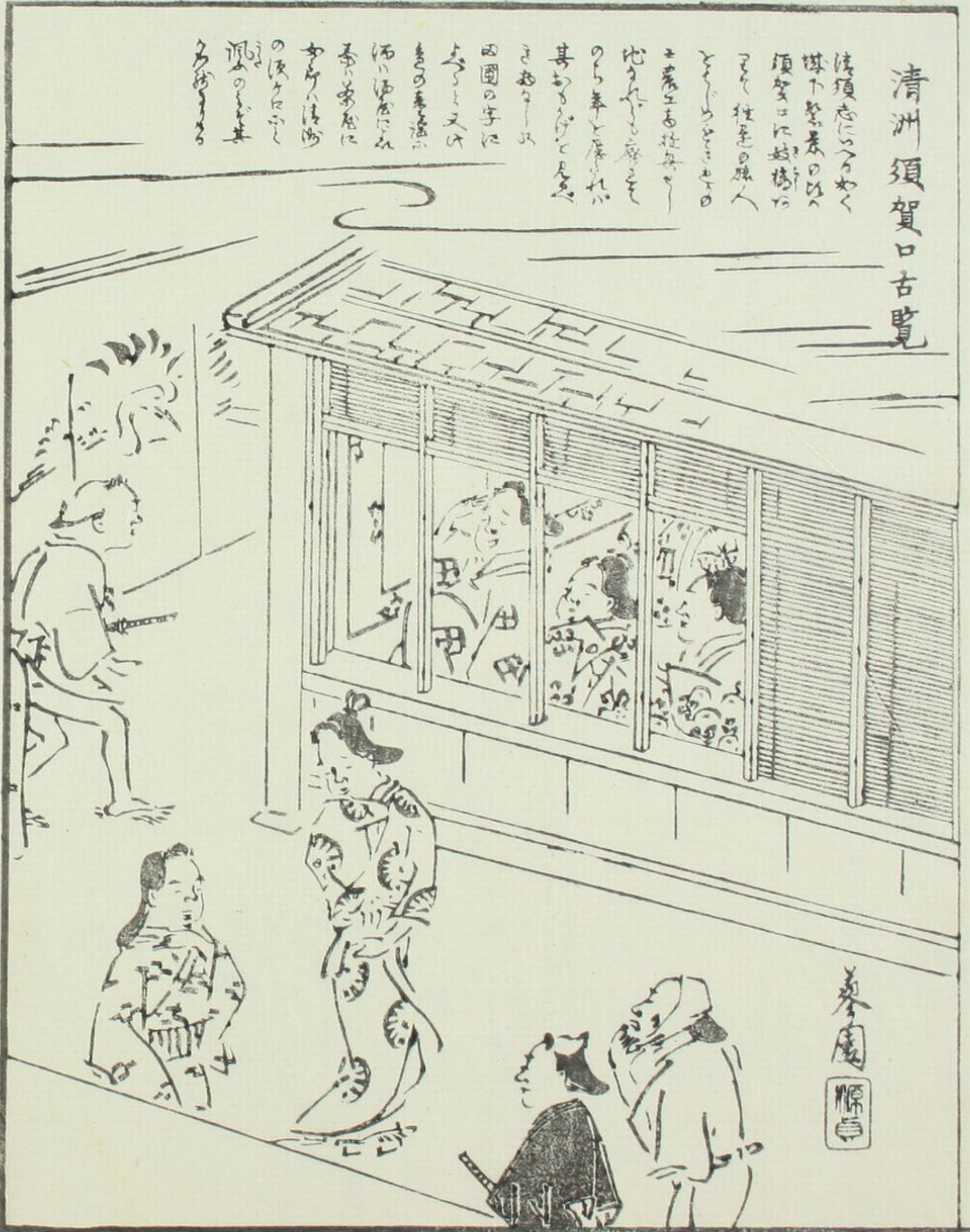


清須花火

きらけいなる  
 火のいり  
 利信







清洲須賀口古覽

清洲志に云く  
 榎下繁茂のゆ  
 須賀口に於て  
 多く住居の衆人  
 といふなり  
 其處は古來  
 西國の寺に  
 よしと云ふ  
 名の寺あり  
 西の邊に  
 ありては  
 名の寺あり  
 のはたは  
 源の寺

養園  
 源

山王社

治の事も

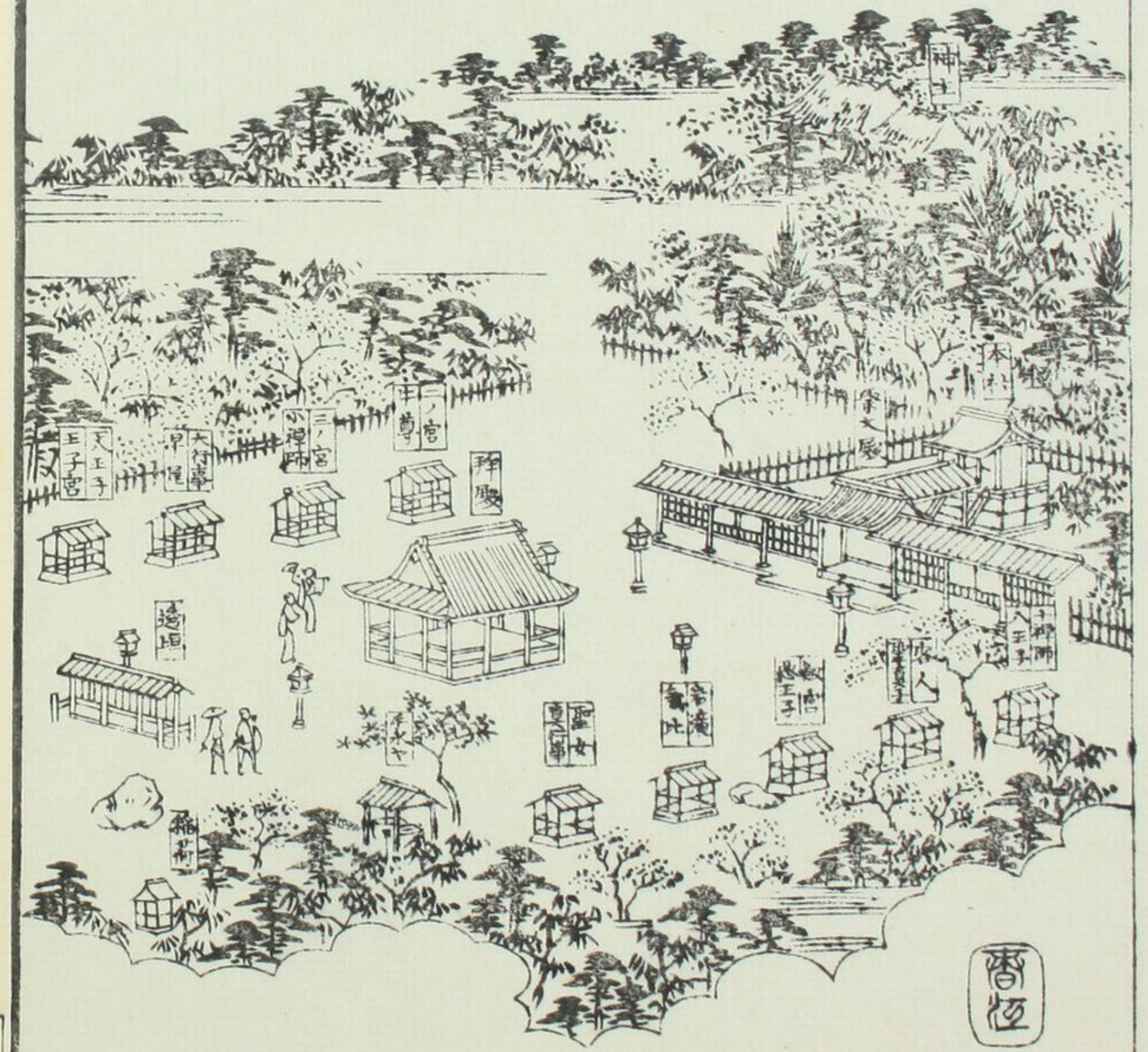
うま

うまに

うま

ふれ

正次



香煙

尾張名所記  
風のまの吹

精い山王社

木の葉の札

屏竹

まろけい

ふま

夕ゆり

我見

尾張名所記にむしりし清洲の城下  
遊人ある時小都方よりおふしりし  
傾塔山王の所へ来て芝居とまら  
らひや子やうしりしとて  
あるやう





清須驛高札場  
清涼寺



つらの次より...  
正清三十一日の...  
紙とシテ小切さし葉つつけ竹の  
中流小の...  
大板及び破...  
のうら...  
おび...  
ゴキとつけ...  
あつ...  
武田戴周が清洲志

天照皇太神國常立尊の二座と祀りて古城郭内の地にあり  
を永和元年斯波右兵衛督義重よりて尚城と築きて今  
の所小移りてなり幣所糸文敬拜敬透垣多居も殿守に  
建つて迄未法熱田社八幡社鉏山社あり神室ハ八幡の松花堂草の  
歌仙三十六枚あり今つれてよきとりびきりの多し惜むべきの玉  
ひり...  
須上皇神明半切天正十八年九月十六日光正と那付より俗にま切といふ名の  
に足より  
其外秀吉公の御朱々信雄公及び 性高院君より賜ひ  
一制札等あり 例祭 八月十六日 神主 加藤  
家傳夢想丸 因所本陣 林氏少く製す小兒五疋驚風をてのゆ葉なりと勅諭せしむる  
ありて公の勅を講の時まらふ末を正三の一子正長俗松也多傳清洲の地にも宅次  
其後寛文八年申年その子孫一尚沢の平陣役を命じ多し今この所にうりてつて夫より代  
言相伝と名付たり其松枯て今枯れたり 妻ハ彼記に清りてまに陸次  
高松館記  
清洲驛古張州治也故羽林家居馬時館驛在北市  
村至城於名古府而後百姓移居城市為墟寛文  
元徳城於名古府而後百姓移居城市為墟寛文

上畠神明



正明

上畠の林

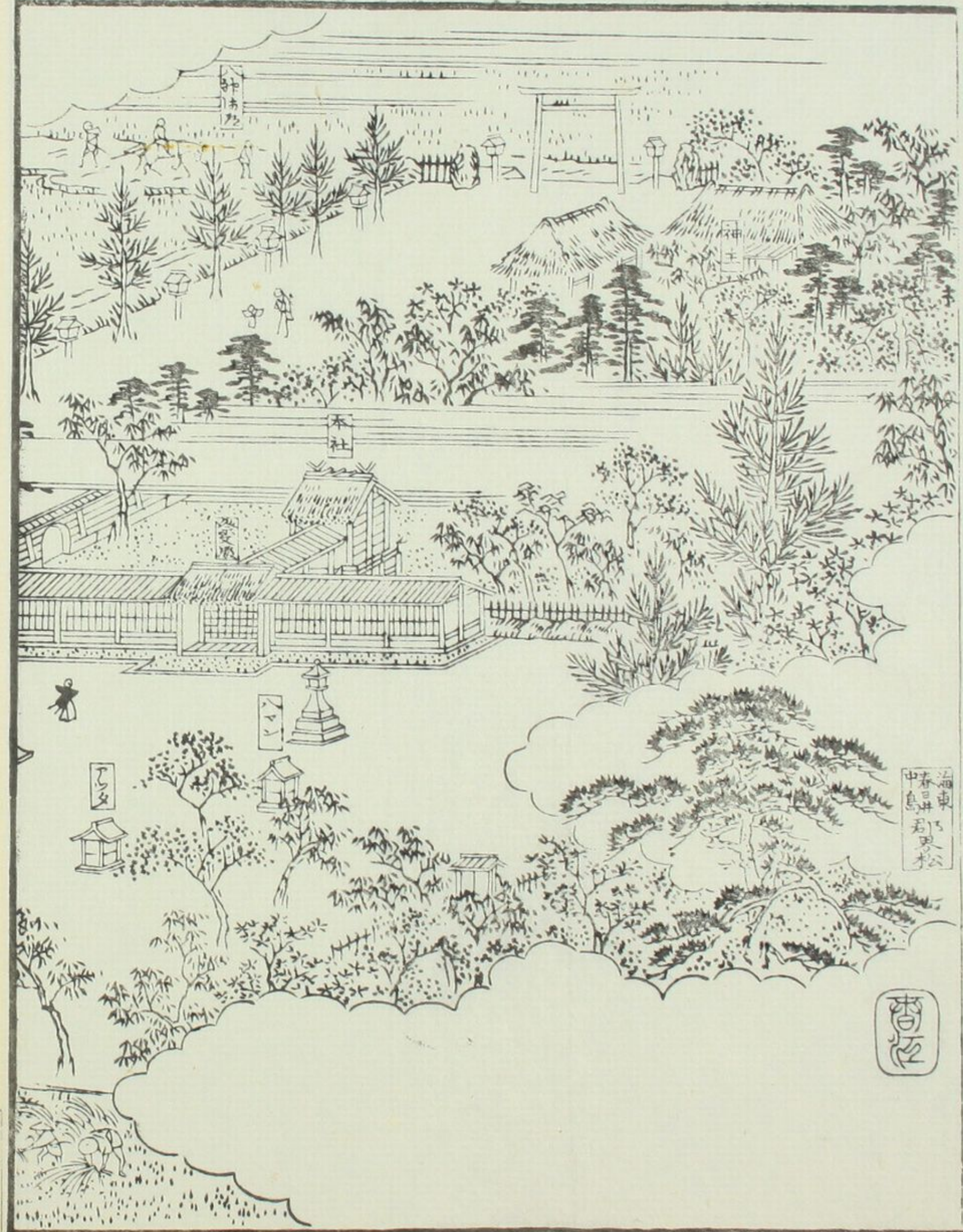
きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

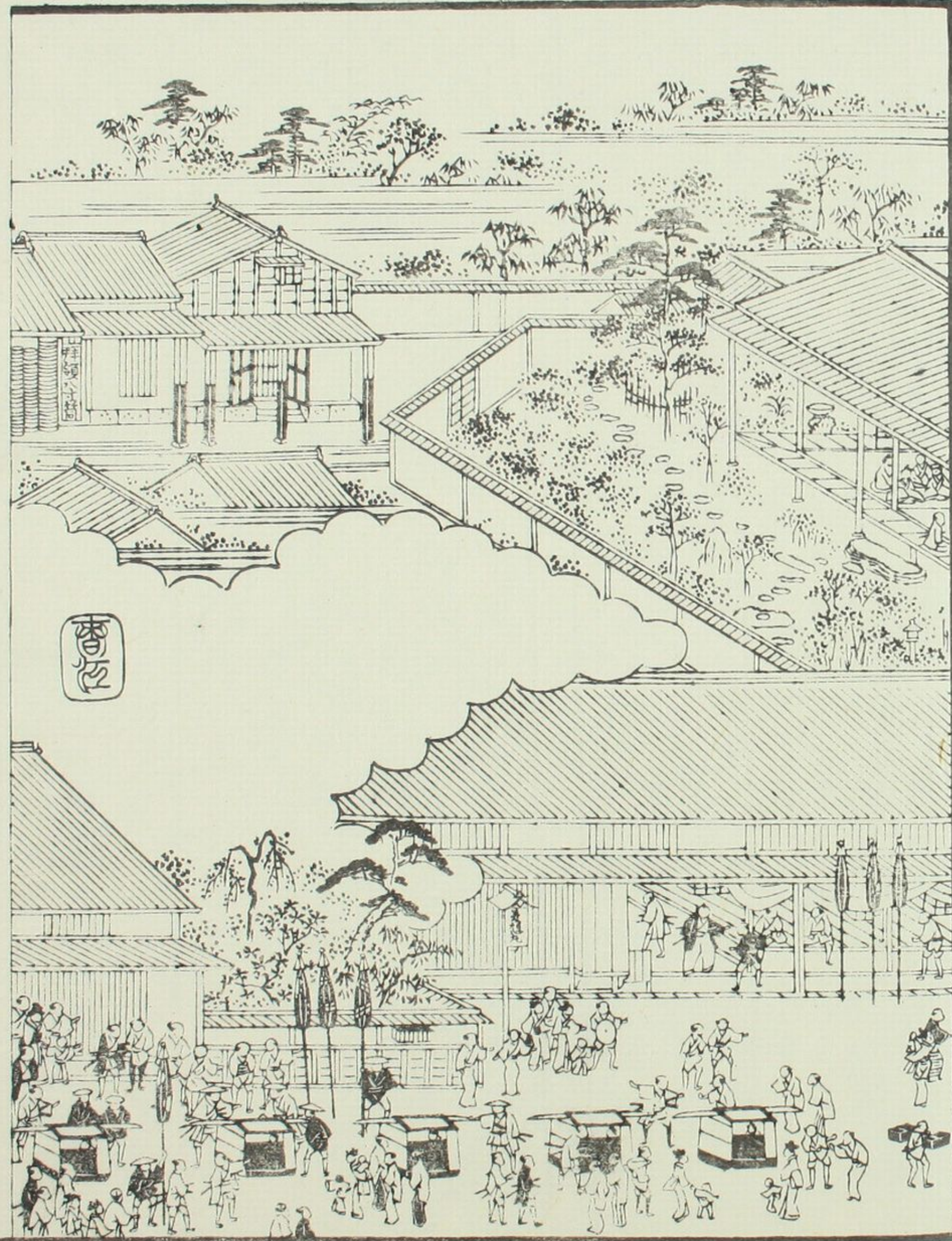
きりぎりす

秋のゆき



法海東  
中島  
君良  
公

香



琉球人  
清須駅  
本陣  
憩ふ園

前巻藏宣康印

これ等の

さうりやの

あつた

まにまに

あつた

松風











の三社あり山王上島當社にも御祈りの修りありけりとのり  
當社より其時の流文より又大政所どの政所どの名の造官寄  
附の品等も神宝の數ふ入り ○攝社倭姬皇女社 瑞籬のちらにあり  
尊瓊々杵尊の 船社 美濃造美濃縣主等が 天宮 天御中主尊 巴波天神  
三座とまじり奉り 津島とまじり 菅原相とまじり 性高院君當社 津島治あり 巴波天神と連年の津島あり  
左のひつりて二月廿五日の祭に 芭蕉天満官 近年の劫 鳥居崎の  
大倉屋の流より當社七鳥居の廢跡一併 例祭 二月九日七月七日八月廿三日九月十六日  
の祭あり 俗に津園七口とす所也 鳥居崎の鳥居に投げあはせ日ハ  
鳥居の汁をとりて當社の大倉よりきたまの大きの餅と九鳥に投げあはせ日ハ  
天照大神の地におくともいへり鳥居崎とて 天満宮一代記画入巻物朝日殿寄附  
神寶 古假面ハむり 舞樂小用ひより 天満宮一代記画入巻物朝日殿寄附  
其外古宮縁起一卷福島正則寄附狀二通池田輝政祈禱狀二通秀吉公  
御煩御祈禱書付等あり又當社におく終る二枚ありて一枚ハ日月星の三光に神はと  
傳へて國よりきたま八年九月御神施敬の文字の足白一枚ハ松の画にて元和九年五月  
尾州名古野より何れも古く書画にも定るなり ○尾州舊話畧に秀吉十  
七年八月清須町中迫也より民涌と鳥居津園神明の群集とあり其時神の  
云々といふ張州畧記に秀吉十八年甲寅八月十八日云々伊勢外宮の大社園玉の上  
飛移りといふ又山田をたわたりて俗に鳥居崎と稱し津園津園の社地にて群  
實に希有の跡なり信濃の所中をとり通ると鳥居津園津園の社地にて群  
とあり又よりやにありて鳥居崎とて其頃半井村の養の社地に わりてあり

及び鳥居崎とてわきまありき  
けし通りとて板橋通ともいふなり

**興聖山惣見院**

同所北市場にあり臨濟宗永野妙心寺未だ院名古居惣見寺の  
舊跡ありとて廢跡久しかりとて正保元年 慈尼寺の 興山和尚 國祖  
君小は廢地と稱して惣見院の号とす其後 瑞竜院君津深寺ありとて佛閣と經營し  
潤山にありて又惣見院の号とす其後 瑞竜院君津深寺ありとて佛閣と經營し  
山の類とあり又惣見院の号とす其後 瑞竜院君津深寺ありとて佛閣と經營し

**朝日殿宅址**

朝日村ありて今民居居たりといひ人いふ其時政所の母公ありて當所の役人  
後世又ありといふ有徳人の説又あり妹の女あり父庭あり母同朝日村の役人の後朝日殿と  
稱しといふ云々右朝日殿の位牌ハ東山高基寺の塔頭旭雲院にありて 續玉代一覽に大  
政所ハ太閤の正室杉原御方ありて道徳の女ありて其下紀傳に家史の津深寺或ハ尾張津深寺  
沙中又ありて女ありて又其妹の所生とて父とありて後朝日殿とて尾張津深寺とあり  
朝日とて尾張國春日井郡の地名とて信濃の東にありとありとあり大政所の筆談ハ愛  
智郡中村の条にあり

**浄念寺跡**

同所にありて名古居吉田所浄念寺の旧地なり其を五年 神君舎津津  
成をてて移り上人の傳説と因ひたりて村教ありて其時浄念寺常信も上人の供とあり  
下野の山内の浄津よりなりて 神君より命令ありて福島正則の領地清原より  
既傳りて移りありて大極とて石田とありて通りありけり常信はよく  
びちまて伴ひ我奴族と方治五ありて方治常信兄弟中納言の家よりこれとありて  
りて中納言殿とありて政年ありて付ひ七八日彼城中に逗留し秀信はより三成ハ津深寺の  
りありてありとありて石田ハ浄念寺の跡とありて浄念寺の古記及び万治四年  
系圖ハあり

名産朝日柿

田村小多く作る家毎に数十千つり地産に味よく其色鮮い赤くも秋の頃ハ多し又その隣村下りも作らるる又其味よく四方に...

落合里

清洲の内にあり支邑ありて宮重蓮華寺社屋分地西牧といふ是を落合里とす...

名産宮重大根

落合の支邑宮重村に産次高田の蘿蔔ハ尾張大根とて他邦小類ハ...

中島郡牛部首國訖

桓武天皇奉蘿蔔云々盛長私記小尾張者土大根之最上也...

八月下種彼岸生苗霜後肥大味甘尾州宮繁之産大者

長三尺周尺半重可五七斤云々...

大和本草に蘿蔔尾州小種

尤々他邦小種子と傳へて橙と...

尾州の産小不及

云々物類品隲小尾張官重菜服伊勢...

日野菘の... 共に名産なりとあるなり

形状非肥大味甜天下無根歎宮重字與他村産殊

尾張地やわ〜ひ〜大根畑 麦林

大根の葉もつ〜いや五六代 沙鷗

名産獨活

落合村の〜ら莖花を稱屋分地西牧の四村より出次中のみ

稚川兩岸の菘

上下跡小多〜秋の次ハ色をの證人〜小多〜と云々...

琴皆集 小此丘原の〜〜〜 曉臺

の〜〜〜 物〜 菘の夕〜 士朗

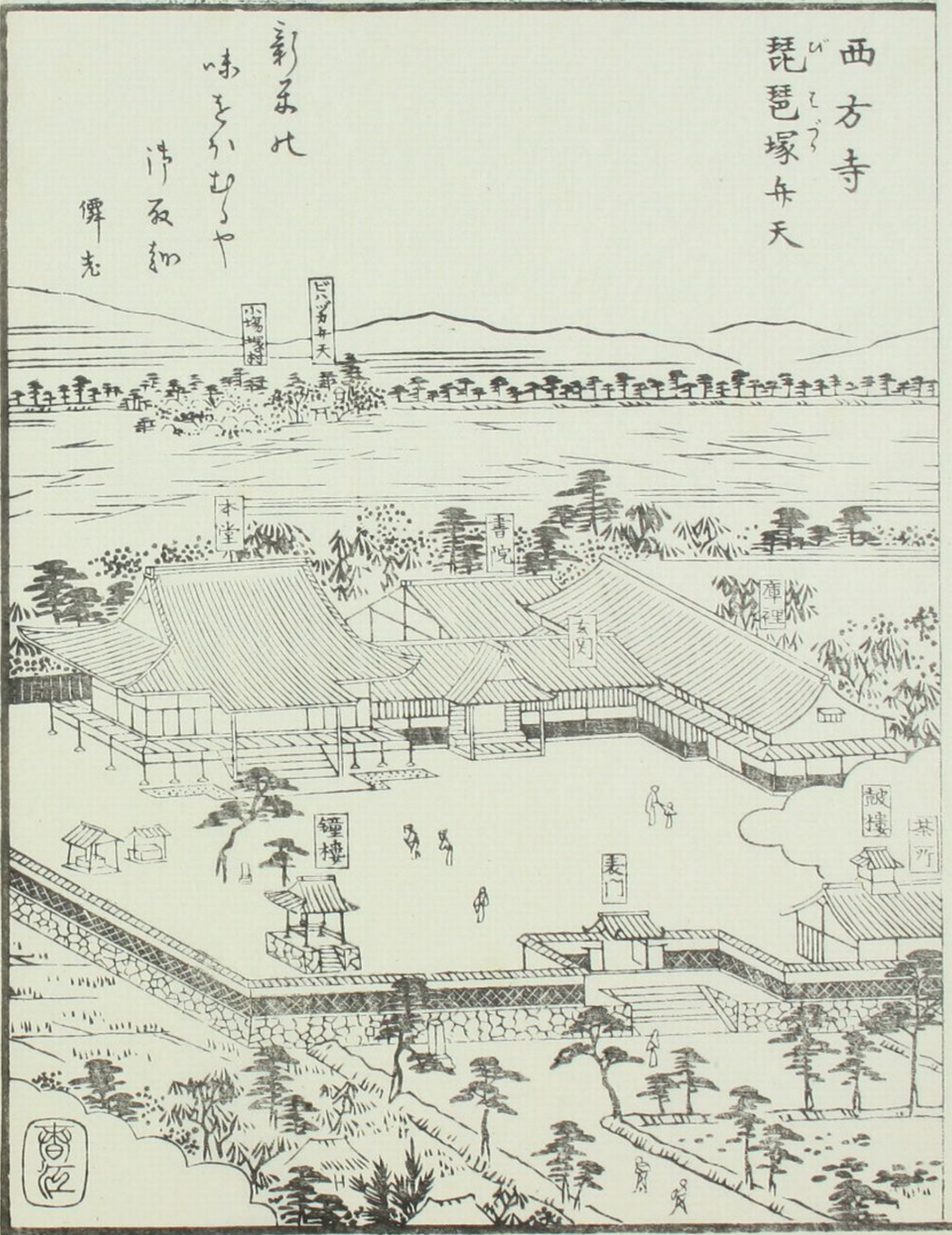
風〜〜〜 菘〜〜〜 川色〜 白圓

秋の日乃斜小菘の証〜 卧央

川乃〜や偏〜〜 雨の秋 麦圃



西方寺  
琵琶塚弁天



新茶此  
味をいひや  
浄取細  
俣光

中河原桃林

千部の後と後早々大平都婆と走り山信長  
情かり大将うまると近国までいさげ  
中河原村の田圃わらうて教百様に及ぶ林中小勢至社ありは地産内川流  
待と城一和分と流しとまの日に水と  
りまればのり流すにさぶも多し

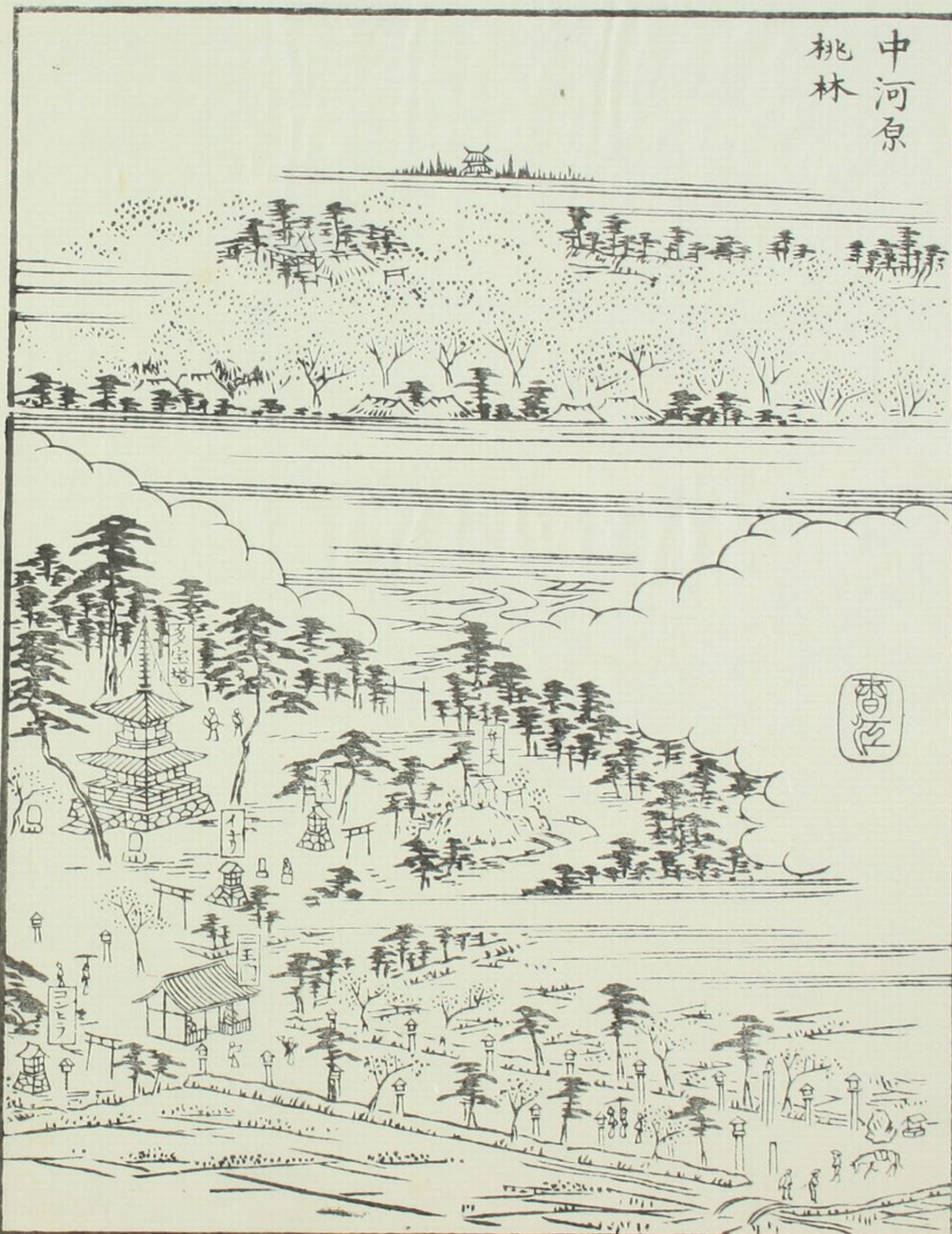
酔月園録年

秋川とてわらうに桃の花もあかりをきて友も人甲してさるりけるに花  
まじりてこれこれとさるるに感に來りて心わきて流るるや  
らんさるるわいて  
おとくを流るるにわらうてに桃の花のさるるの下に 森嘉基  
かてはのさるるにさるるに日もさるるにさるるに  
たまの程いさるるにさるるにさるるにさるるに 全  
とじて見びいさるるにさるるにさるるにさるるに 黄中  
嘆きさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに 日潤  
さるるにさるるにさるるにさるるにさるるに 平野廣臣  
弘化四年三月二日道直より訪ふ前の川の水をうてはるるにさるるに  
わらうて中河原の桃をさるるに  
川の代と遊るるにさるるにさるるにさるるに 正詔

け

あそ子にさるるに中河原小村  
桃の花の透はさるるにさるるにさるるにさるるに 秋磨  
所ありなわらうにさるるにさるるにさるるにさるるに  
房にさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに 田夫の家石

中河原  
桃林



麦浪含風翠  
桃花耀日紅  
雞声與人語  
憶在彩霞中  
澤田眉山

長谷院

まほき枕の  
こゝれ  
中河原  
花の夕景  
道直



花の夕景  
道直  
芝丸

足らぬ古物... 竹の子の頃... 世と世ともいふ... 沙鷗

名産

下河原村の産地... 竹林... 竹の子の頃... 日毎に下河原の市...

竹の子にわけてやうや... 黄山

二ッ

下河原村... 二ッ... 後松と遠の規則... 天正四年...

庄内川兩岸櫻樹

下河原村と枇杷島村の堤上... 三月三日... 其文章...

官櫻 八千樹 弘化二年 栽花 發 枇杷島 雙堤 雲丘 唯

くゆ... 正詔

われ目... 童屋

入ら... 枇杷島

小田井城跡

下河原村にありて今田圃と... 尚城... 斯波氏の家臣織田氏も護

代々... 千代徳丸の幼年... 尾張の守護職... 千代徳丸に守護と命... 南方紀傳康富日記... 信長記等小見津田家譜...



庄内川の花見

傍水總山櫻春深  
花正明長橋三萬  
尺恰被白雲擎

阿部松園

橋上爭看堤上  
櫻一川春色是  
多情花陰有曲  
人聆否自奏琵琶  
流水声

畫屏道人



市人もかこい

おれ様も

はみせけ

花のころ

仲敏

あつたつた

とくまは

まじり

も橋

首岳

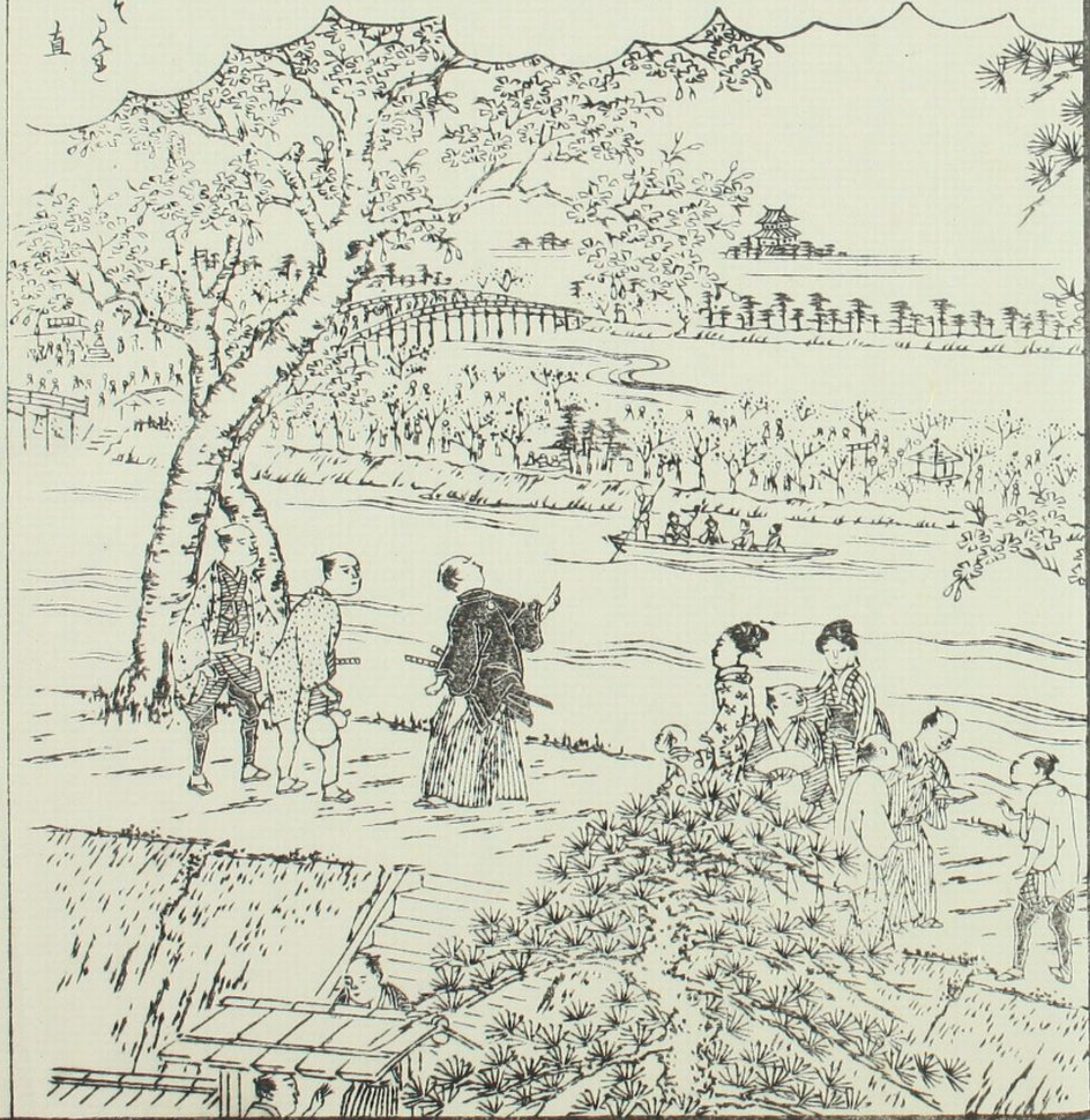
橋のついで

まじり

まじり

まじり

道直



彈正左衛門尉久長の二男丹波守常寛との子兵部大補寛故其子  
太郎左衛門信張等より尚城をのりて

尾陽雜記の小田井村の入口  
左の方に小松あり南に少の  
丘より是城跡と云ふなり此撰者水野金吾遠守寛文頃の人なり其頃より  
りて是より今其地も古名ありて是より今も字に古城跡と云ふなり  
南陽雜記馬場より城跡ありて名跡ありて小田井ハ庄号の所なり實相院門跡  
小田江梅花元々藏に遊臺といふ於多井なるも其地あり今上中下三つあり  
郷のちよのちよのちよ此名もつて

龜岳山宝國寺

田村小川浄土宗名古西元院末弘治三年の創建なり山空上人  
といふを阿弥陀本像ハ信心傳部の作冥室中將姫威得生髮阿弥  
陀寺品いわれ

神明社

田村にあり初清年月詳ならずとも其地ありて  
末社天王社寛文四年の造立なり

渡河山西方寺

田村にあり一向宗東派  
名古登勝鬘寺末  
天台宗より中興國基覺證俗姓  
武藏國豊島郡荒木の任人安藤兵部少補光季といひて武門  
の家とお叡山に登り難髪して玄理と号し静巖僧都小隨從一頭  
密西宗と學び得て博識の譽あり其後諸國と經歷し尾張小まり  
て尚寺にまかりて親鸞聖人小歸依し三州よりあちこちにび之師也

の約と云ふ名と覺澄より夫より聖人大浦郷小移らるる小水  
川の急流たるを渡りてと七人の信徒身命と惜ま河川の瀬  
して聖人と後しありて是より頼部七門徒といふ

小聖人真華の九字名號蓮師御筆の光明品と安置せりといふ  
みく師弟のちよに授與の品今も寺傳すまきつら極らる

百合といひ傳へて麻子百合なり西方寺百合といふ世人羨望せり

名産壘表 田村の壘表は壘表といふ小田井表は壘表といふ本州にあり他は多し運送  
名号を極蓮上人の遺教より二幅教め上人書簡三幅秋込め朱思恭手是澄西條成  
天台宗のゆり傳来の金襴五條の智念其の教多あり

琵琶塚

小田井村にあり村名のをばつらびの塚の地なり  
寂莫なる山林より彼翁が琵琶と共に所をこより得るちよの年天の小祠あり  
其亦七年宮の友村中よりあやむ居と遺立し本社福井檢校再造し門人と共小  
お殿とて平曲と奉納せり対彈の治承四年の文字ありて下小田  
井矢橋氏の裔なりといひし所長公の撥とせりといひ清休の斷の宮居小田





東雲寺  
願王寺  
五社明神



遠策馬來敵軍一戰死其處  
 復歸城小田井同十九庚戌  
 矣守四代孫而六郎信張寬  
 波公當世後從之敗國軍於  
 長井長政朝倉義景取四時  
 部三井出羽守等討取百餘  
 天正乙亥補和泉守護職是  
 信長公乘賦奪之費為守職  
 天正十五賜米二萬石除入  
 以淺野氏賜米二萬石除入  
 織田院于時秀吉公以那須  
 天正又六郎信吉父信張氏  
 山端右京進富田昌倫等戰  
 織田竹千代信氏為田井城主  
 二男織田千虎千代忠長父信  
 也忠辰於信忠卿前元服賜  
 氏早世復為小田井城主信  
 州至文祿三年免許景德院  
 十九年於京都幸畿地于時  
 淺氏賜賚銀百石其嫡子津  
 自是改津田慶長年中十四  
 放濃州二箇所家地拜之俊  
 石正保二年中幸畿本知院  
 室永二歲次乙酉七月十日

東雲主盟 盤首座墓化

星大明神社

上小田井村にありて大己貴命天香々脊男神牽牛織女と相敵にあつて幼讀の  
 年月洋々、故棟札に曆應四年巳年土月右近中將藤原實秋中兵あり  
 神明社天王社金毘羅社秋葉社あり例祭七月七日ハ七夕を多と執り、外影ホと知伏又  
 八月廿三日ハ外影あり、祠官ハ島氏

慈眼山大聖院

日村にあり、真言宗ハ村万住寺末天文十八年、織田又と郎、信長創建  
 といひ傳へ又と郎持念佛  
 ありといふ也

江北山法源寺

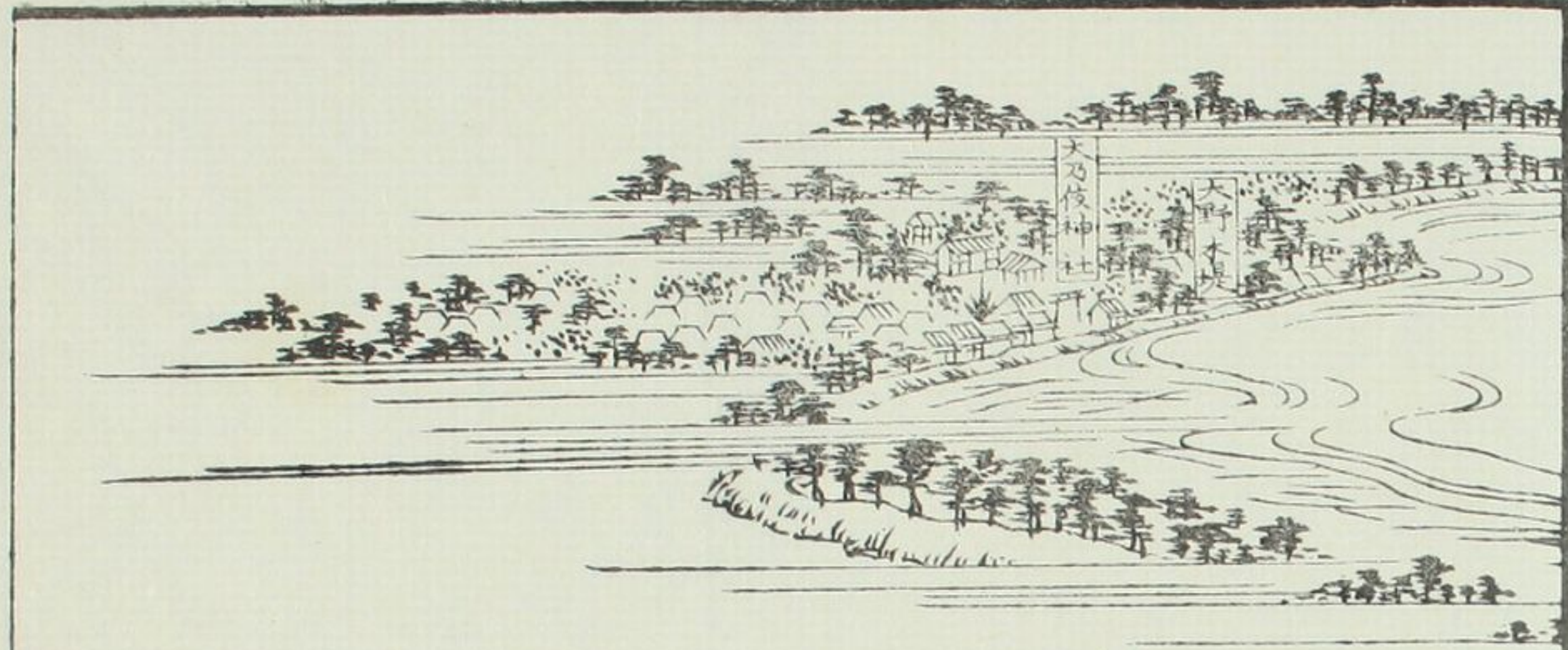
日村小あり、法隆宗名古屋政秀寺末天文廿二年五月津田又六郎の母陽徳  
 院殿心庵了悟大禪定尼の建立して寛文三年三月卒與ヤ、も傳ひ之

峯光山長善寺

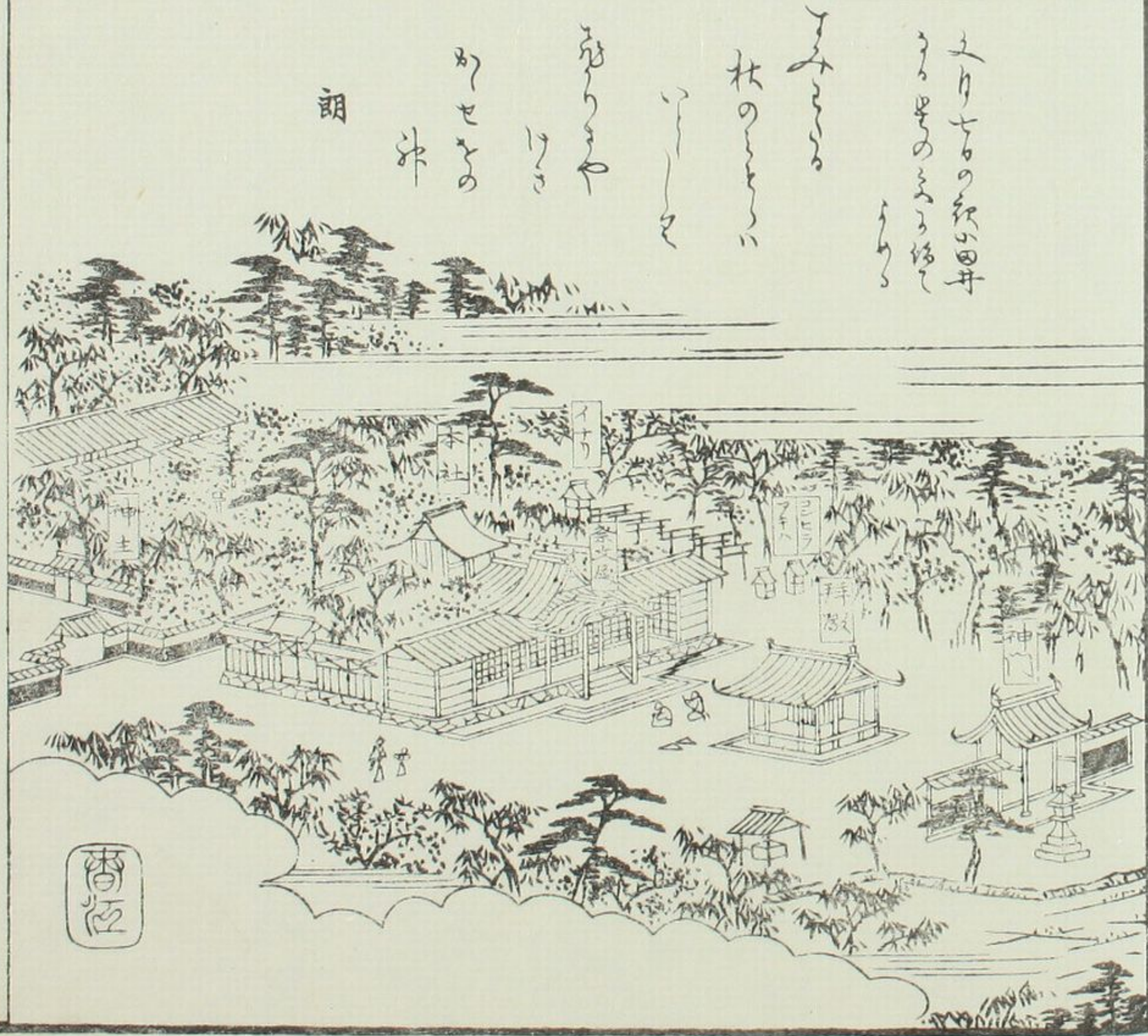
日村小あり、一向宗東照系部、前山の直末あり、天文八年の創建ありて  
 齋の石碑あり、菅菴ハ府下の作人あり、茶事及び画と、曲全と名と等とて世に  
 傳ひ、其子孫今に連傳ありてお慶す近年彫刻も、所の續編書画一覽あり、日紀年大  
 成名家時代指掌等に載り、菅菴ハ俗名高田太左衛門、名唯然といふ先祖ハ豫州九條三  
 織田信益の末裔ありて天和三年、田生共竹葉ありて画と狩野常信にまひ画名ト黃狐良齋と  
 稱す、茶事ハ二十餘條あり、原更宗ハ門ハ入後所會によりて宗也、其の臺子と菅菴ハ事  
 保六年十月廿七日逢原行五十年の退善と受く、若宗佐朝ハ、内鈍を郎と名づけ、茶破と還  
 引と傳ひ、是より菅菴と稱す、別号源良毎業結菴具三曲成堂信職齋と、古後揚  
 の南に閑居、室曆十三年末土月六日ハ十一、つて段原隨筆茶通筆記あり、百卷にあり、  
 といふ、菅菴後、佛僧のなまあり、定朝作の河津院及び  
 自畫賛物若干ひちに、勉む今ハ、あるの吳家の教に入たり

東岸居士舊跡

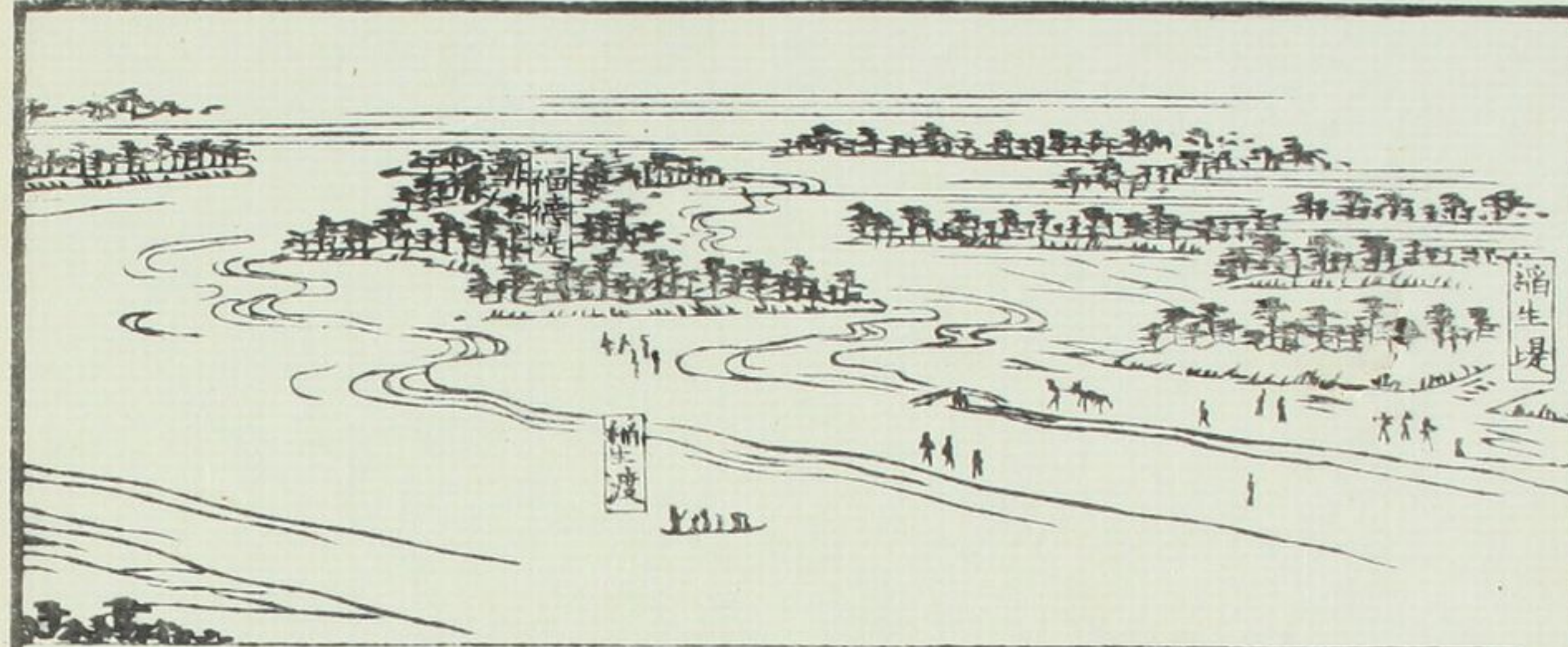
塚村空琳寺境内にあり、又其南の田圃の溝川に後、小橋と東岸居  
 士の橋といふ、海曲拾葉抄等に居士のあり、これと尾注小あり、一、み、文に尾



よりての... 舟  
 舟の... 舟  
 舟の... 舟  
 舟の... 舟  
 舟の... 舟  
 舟の... 舟  
 舟の... 舟  
 舟の... 舟  
 舟の... 舟



香



星官  
 大乃俊神社  
 稲生渡  
 里大の舟小舟  
 従一位祐真卿  
 手にちり  
 うのらの舟や  
 ういららりり  
 やらのやらの舟  
 けり  
 はに



尾原のいむの街送... 尾原のいむの街送... 尾原のいむの街送...

尾原のいむの街送... 尾原のいむの街送... 尾原のいむの街送...

白梵巻

稲生山新福寺

新福寺村にあり天台宗... 新福寺村にあり天台宗... 新福寺村にあり天台宗...

松登山圓福寺

尾割のふま井約馬村... 尾割のふま井約馬村... 尾割のふま井約馬村...

正三位供香卿... 正三位供香卿... 正三位供香卿...

遊園福寺... 遊園福寺... 遊園福寺...

伊奴神社

稲生村にあり今三... 稲生村にあり今三... 稲生村にあり今三...

稲生合戦

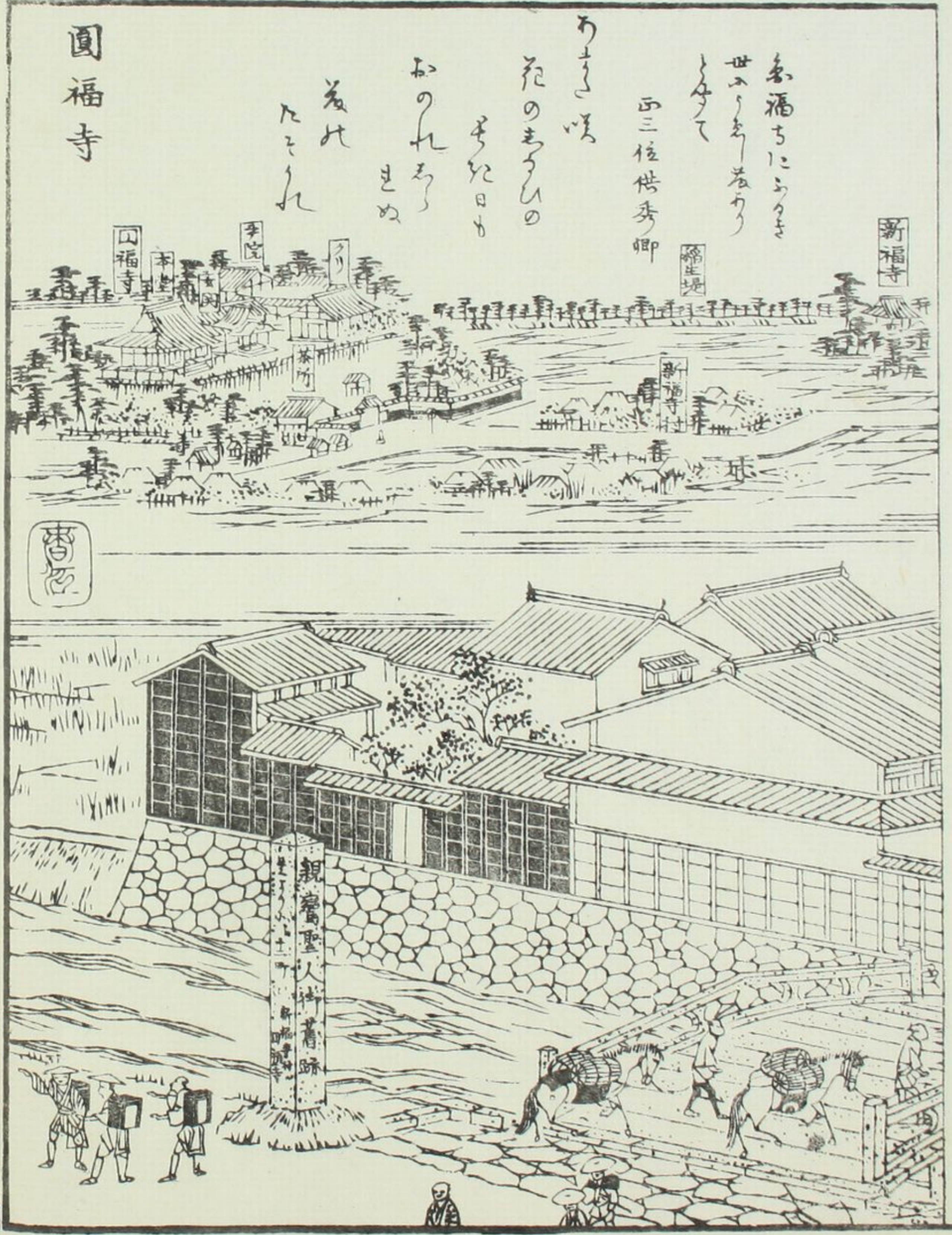
尾村の意今田圃... 尾村の意今田圃... 尾村の意今田圃...

伊奴神社... 伊奴神社... 伊奴神社...

わやぶ免奉仕是かよらるる清洲の東名塚村小要害と據て佐久間  
大守と入至守らるる。かくて長尾隆景は多井川洪水の折を  
待清八月廿四日の早朝は田村ら一千餘騎林美作守も多勢より  
来て赤松名塚の城と攻撃む。押寄より俄に構了。若くは  
抱へるやうけん大守水練の達者とてして於多井川と渡  
せ清洲小告る。信長と即時小出馬。とてやうやくをせ来る。於  
多井川の大水と交戦する。槍らる他も西山とて。わけは  
公の勢川の越ゆる。僅七百騎より。柴田林が勢は二千に及ぶ  
多人救ふ。危うくも。まよる。悪人数と二手に及け。後  
田造酒丞目勝を遣ふ。と武者大将とて柴田が勢に向り。佐久  
孫助山田治部を遣ふ。と武者大抱とて林が勢小愈向け。林は  
山田の勢は林が人数と戦ひ。が負色にあり。これ。両将怒る。戦ひ  
途小終に孫助も治部を遣ふ。討色あり。かくりけ。美作守猪にり

て働さける。と表三左衛門。遙か。今日の合戦清勝なり。と信長  
之中上げ。叔三左衛門。奇計と巡り。林が清勢と知り。自身  
旗本の備へ。然ら。虚と。是。三左衛門。其。あ。け。す。ん  
今。こ。も。か。ま。し。く。わ。知。し。て。陰。と。し。ら。く。突。か。く。黒。田。半。平。は。美。作。也  
小澤合切つ。ま。り。は。平。虎。ふ。り。信。長。公。つ。と。走。せ。かけ。流  
り。て。原。地。も。と。突。あ。せ。ふ。と。清。中。間。缺。口。の。杉。若。と。り。者。か。け。り  
林。が。首。と。討。色。あり。叔。缺。口。と。書。き。し。り。馬。田。半。平。に。仰。せ。士。は  
取。立。黒。田。杉。を。遣。ふ。と。名。付。ふ。は。勢。ひ。小。林。が。子。の。者。と。返。敷。け。り  
叔。又。造。酒。丞。勝。を。遣。ふ。り。織。田。左。馬。允。佐。久。右。大。守。を。林。が。他。も。と  
勢。と。敵。討。い。て。戦。ひ。の。所。に。後。より。信。長。公。大。事。と。林。が。他。も。と  
討。色。あり。と。勝。家。と。し。ら。す。討。色。を。や。し。の。し。ら。す。の。諸。勢。力  
と。得。て。お。戦。ひ。佐。久。間。大。守。の。槍。下。十。藏。と。引。組。終。ふ。十。藏。と。討。り  
ぬ。か。り。た。れ。が。掃。家。叶。り。と。や。思。ひ。し。ん。螺。吹。て。逆。々。と。味。方。勝。関。と





圓福寺

新福寺  
 新福寺にふくま  
 世よりありきり  
 とりて  
 西三位世秀卿

りまの  
 花のまうしの  
 ちりり  
 おのれろ  
 ちめ  
 ちれ  
 たこん

作りてお幡も山まで追討おろりたに二百餘騎と討死ける雑兵も

首級七百餘と持て清洲へ帰陳しむり

稻生堤 同村のわああり大井本一のゆ後わろて稲生後とよまの領ハ府下の村人群集りて  
 堤とわげ稲生とのまわりのまふに屋日と為り城北より佳境ありて古人のたふ  
 とま

伏越 田村のうら光吉ち村境あり 福徳用水川と庄内へ引くんや矢田川堤も三町  
 竹の地の下に七八尺の大木と二節埋りゆせよ長木あり其大造より半使ははたか  
 二筋の川ハの南のて為合一筋と  
 うんすれりらあま川也

三寶山観音寺 兎玉村あり曹洞宗名古也永安寺未妻長八郎年鏡屋首座の建立あり  
 其後永安寺二世孝国厚和尚と潤基と次本寺聖観音ハ 國君山四郎齋  
 小命よりハ彫刻までして伊勢附あり一本港あり 鎮守神明社の元和四年十月十六日赤雲一  
 南よりあり当村の大日堂の茶にままり其所を足れハ伊勢神宮の大庭と本馬一驅あり  
 村民相議して社を建かり二物とゆき神明社と崇りあり 國祖君あり此地にたひり  
 当山と伊勢山と名づけ又社の名の川に橋をひきておとせ橋と号する其川を後におとせ川  
 とし元禄十丁丑  
 年又依造より

丹羽五郎左衛門長秀 母長政の子息兎玉村に生る 幼名万代丸十五歳より信長に仕  
 一方の大物と慕り向ふ所あり 慶長十一年元龜二  
 年近江の依和山の城五万石とあり天正三年正月信長公宛宛の武士の古き家の号とあり  
 て家人等に名あり長秀より惟任と改りらる公より後母お復す公并信忠  
 伊勢あり信伊勢孫三信伊勢と名あり 信雅信孝と後見とあり 長秀若狭國と近江の  
 滋賀郡 高島郡とを治りて 天正十一年の春長秀吉公柴田勝家とありしに信加勢

丹羽五郎左衛門長秀 母長政の子息兎玉村に生る 幼名万代丸十五歳より信長に仕  
 一方の大物と慕り向ふ所あり 慶長十一年元龜二  
 年近江の依和山の城五万石とあり天正三年正月信長公宛宛の武士の古き家の号とあり  
 て家人等に名あり長秀より惟任と改りらる公より後母お復す公并信忠  
 伊勢あり信伊勢孫三信伊勢と名あり 信雅信孝と後見とあり 長秀若狭國と近江の  
 滋賀郡 高島郡とを治りて 天正十一年の春長秀吉公柴田勝家とありしに信加勢

功なり…本領の若狭越前及び加賀國の中二郡と併て場り…越前のわの庄に在りて  
 百方石又ハ七十方石を以て初より山張洲人物志ハ叙五位下任越前守とん也如年頃  
 積聚を頗ひ命すにそんとは秀清積聚をたひつるを痛ひりたりも我命を…  
 者こそわたりたれ其形を龜の如く背をのびく…に類し強りて脊中に刀のわりりる跡あり長  
 秀ぶらりる筆と…のりてまのりてを…に…を…と書きてめ暇切  
 たる刀に積聚の虫と偽て秀吉公のりて奉ら公大におどろき務きたまひ自ら浄筆と書され  
 子息小所成となまりんるお違わし…の…を…に長秀ひ…を…とて今  
 思ひ事…とて死…の…の…多門院日記ハ天正十三年四月十四日長秀腹  
 ときり同十六日死と志願せるる…又同郡味滋村ハ秀吉の宅址あり…の…洋…

**多奈波太神社** 田橋村 **延喜神名式** 小山田郡多奈波太神社本國帳  
 小正四位下多奈波太天神とあり…官社なり今七夕の夜…  
 て例祭七月七日燈とかけて諸人幸福と

**越智氏城趾** 田村あり越智氏ハ河津林等の祖とてサノ尾張安徳ハ任りて陸奥に春日  
 并郡山田庄田橋村古城ハ越智右馬允信高居城云云或曰是尾張の林氏の祖  
 たりて見…信高の子狩岩村城之林弥助とて其子林依遠守信勝とて又  
 當村の農家ハ其浦氏ハ川氏と名ふる者ハ越智の家老とて其孫なりとソリ

**吉祥山林泉寺** 田村あり曹洞宗熱田回通寺あり熱田の田中にあるて永泉寺と  
 地ハ易地なり…府下の士林京氏の別荘ありを今今あちの庫裏ハ則お森の名  
 跡なりとて其後室暦二年今のち号とて又上杉謙信の画像及び位牌ありされど當  
 ち長尾氏ハつきて由緒ある地ハ…ハ其保十二年府下の士依久尾氏志と名門あり  
 てもに納めりる画像ハ約謙信一百五十年の忌にあり退福法會と執行せり刻法樂和音

一巻中傳すこれより毎年三月十二日係とかけ法會を設け寺堂涅槃像ハ北殿司の筆  
 境内に人磨社あり程阿作の係と安置次毎年三月十八日和音奉納せり

**綿神社** 西志賀村あり今綿ハ情と云ふ **延喜神名式** 山田郡綿神社本  
 國帳に從三位綿天神と云ふ綿ハ海のかり字とて海童神と云  
 へあふけいさぐ中世八幡と稱するより今の綿神と云ふは  
 けさりまで入海する所の神社のかりとあり此西より新川と城  
 へ防地中よりと云ふ所の売の多くありあり今もそのと具  
 塚と云ふ志賀ハ水色の里と云ふ例多く淡海の志賀里と云ふ

**諸國小多** **神名式** 筑前國糟屋郡志加海神社とあり國例  
 の社あり 瑞穂齋殿拜殿鳥居あり末社神明社白山社淺間社 **児宮** 古社の別  
 熊野社荒神社粟島社あり例祭三月十五日八月十五日 初之初て  
 幼法の年月詳し淡安永年中より清盛殿ありて清光守ホる上府下の士庶人も村  
 小宮堂ハ例祭三月十四日大に神樂ありて多保群と云ふ瑞穂齋殿多保有  
 ありて多保 **神主** 森氏

**鍛冶屋敷** 田村にあり至徳年中鍛冶屋敷に居て鍛冶つらと志賀延とて美濃國  
 志摩の一伝あり山田の國次の子と云ふ今孫…とて價む貴とて委  
 ありとあり

平手政秀宅址

因村より今城の土居と云  
享和の頃ここに碑と有り

改秀の中務大輔と云ひ信長

公吉法師殿と稱し那古野の城小居より頃父徳後より林  
新五郎ともいふ家老と云へお誂られりしかして信長公十六歳の  
頃父おかくは多ししが朝書武藝をせしむる他事と云はれ我々  
うて行跡西より先考も不孝なりき改秀是と嘆き年月  
練奉り又五箇の練書と捧げしにも兎角字法よりバ改  
秀思ふやう一度お家をも治りめんと見申交なご乳哺より  
守之れども弥頼母げもう君臣の間も不和小なりけり只自  
害して見申さる清心とも云はれめんと思ひ定り改秀が領  
地の志賀村へ引介家老山田久由と云ふ者と使して沢彦和  
尚一書をつくり練書逆耳故某自害仕候と云ふ心と云はる  
筆のやみんちき送り床の腰とかけ下刀刺て信長公と急ぎ  
呼ぶてとりひかれしれり終る公かくは進申さる是と云

珍ひしと馬を誂つけし汝何と云ふ斯はせやと云へ  
取付まの床より下りて清心と云ふ何事やわめけん暫く之上  
ふ信長公今日より汝が夫見に成るべし一病者生まると云ふ改  
秀是清心見しと腹十文字に捺切て取借し死せりし時  
天文廿三年甲寅閏正月十三日の曉行年六十二歳なり信長公  
死骸小抱付て清心愁嘆めりあり古今追腹と切者ありし  
ども君の清心と云ふんちりに自害せり和漢の無双の勇士これ  
惜すぬ人のみりたりこれより信長公行跡と云へ終に草創五  
君の一人と云ふりありし印の改秀の忠義ふれりしかして信長公  
沢彦一清使者ありて我無器用と日頃練書下も用ひしりけり改  
秀不慮に切後せり筆又に誰と云ふりも力と云ふり引導等  
頼むりありしと云へ則法名功菴宗忠と付て下炬の頌に曰忠肝義  
膽太稀奇横按鎮卸忘所知末後窄闊鏡爐歩一舉々倒五須弥

と喝(一喝)ききし、信長公声をあげて愁嘆し、平手五郎右衛門監物兄弟と擔ひし、公も清手をくけりて、那古野(津泊)の後沢彦に命じ、改秀とて、那古野小本村を建てる。改秀居陣の、おち傾三百貫寄附し、と流籠に吊ひし。記の要と括て、信長記の、諫書五ヶ条の文と、奉りし、又連、宗牧が東国紀行に、織田弾正、禁裡御修理の儀、依り、仰下、平手中務丞、改まりの、御料物進納、云々、宗牧が尾張(素)行、小那古野に、下着、平手おじい、一庄、真りの、宗、云々、及、武名、この義氣の、に、なり、成、連、致、さ、心、と、用、ひ、文、事、と、兼、て、や、

平手中務君碑  
 人誰不死或輕於鴻毛或重於泰山其重也  
 之其輕也亦有決之決而或仁雖百其身可矣  
 公之立也年少志行中務君驟諫為不聽最後  
 切諫退而自殺公為之怨艾霸心始生矣夫自應  
 來海內亂麻公起自尾張而撥之群兒幾職功實由

今中津郡三宅村野口集うる者改秀の  
 高塚といひ修く其遠おる乎し并おる

安土創業  
 本村ハ  
 録改秀寺



児宮泰りの図

綿八幡社  
 平手政秀碑

直諫、巴、居、豈、願、身  
 自、茲、幕、府、策、勲、新  
 一、言、伏、斂、誠、心、力  
 贏、得、獲、貅、百、萬、人  
 細野要齋

とを、も、く、  
 こゝろ、を、い、は、さ、し  
 こゝろ、ゆ、り  
 み、ち、の、と、く、の、  
 る、ま、し、  
 れ、  
 雄、也

君祭典曰以死勤事則祀之如君者寧敢我張人雖  
天下萬世尸祝之可哉君諱政秀姓平子氏稱中勞  
大輔尾張國春日井郡志賀邑之人也公既厚葬君  
又建一寺名用其諱以旗之云今茲享和壬戌上距  
其沒天文癸丑二百五十年或曰比干剖心史魚置  
屍烈矣而豈若我中務君克格君心功及天下者哉  
又况其子弟亦皆忠勇而監物汎秀弱冠將援軍戰  
於今也其形原不忝爾父祖乎是宣百世榮而其無後  
抑彼蒼々其謂之何曰是未有不顯者也豈必為無之哉  
與立石於志賀宅趾勤以此言以告後人又使秦鼎  
作銘曰

小僧菴菽

安井村のうら矢田川隈の杉林中にあり  
秋のころの府下の文人松記の一所あり

かたはりの栢もあつてとれたれた 也有

類聚士朝史の集  
菽のや 塚のるの大けしき

守心にかきしきしき 秋の雨 沙鳴 士朗

安食氏舊居

安井川と赤松川の間に福住中切成願寺の三村と安食庄とよ是和名抄の  
山田郡安食之東鑑みんる葦敷三郎重義平家物語源平盛衰記等に

つゝ安食次郎重頼其子太郎重賢同三郎重隆を歴々の武士何をもひとの人なり治承より  
承文の頃までつゞく徳倉方に居り或は公家方の清味方なり人なりつゞく武切あり今  
より尾法源氏浦井重遠の子孫  
のいふ脈系譜にみゆり

普門山聖徳寺

福徳村にあり天台宗中切成願寺未隣村成願寺の安食重頼法名常親の  
善提寺なり安食庄内のうちにては寺及び中切村兼田寺等も常

親寺の支院なり今本未退轉一いつ成願寺が古の末寺なり陸虎  
に之りありあり田光寺吉祥院といひと聖法太子の自派の像を奉りて居り近世今  
の寺号に改むるに葦敷三郎重頼夫婦の木像あり婦の像は往年の洪水に流失し  
たり今其目寺のありと種々の像ありとありおき親の像又成願寺にあり山田二郎  
重忠の像も古像なり雅趣ありとあり利賢法衣を看しれば更に武將の姿  
といふが全く羅漢の像とやまらざるなりとありと先輩もついでに又付室  
小葦敷系  
圖あり

臨死

葦敷二郎といふもの四人あり浦井四郎重義の二男を其子重高其子重行  
及び山田能後重定重定の子八重た徳耐時成三男重茂等ももに葦敷二郎  
と稱すは古像なりとあり徳耐重行の徳耐の列祖とあり山田先生重  
忠の弟なりとあり出家しは古記ありて重行の徳耐の像なりとあり  
がひあき歎嘆呼号後のかゝるものなり新更時世と隔てりは何れと定り  
かゝるものなり徳耐も重行も

あゝはの徳耐の徳耐ゆり徳耐ゆり徳耐ゆり徳耐ゆり 信景

大長山乗圓寺

中切村にあり曹洞宗名古屋永安寺未びり常親の一堂なりが衰廢  
お及びを安古年中永安寺二代東順和尚再興し今のかくありと

つゞく陸虎に中切村にあり徳耐ゆり乗圓寺とあり昔は常親の一堂なり其跡は田の字にあり  
徳耐ゆりといふ云云陸虎所土面の古像なりとありとあり行基の作なりとありとあり徳耐の

井地より手なりの修りもはかばかしくおぼやうなり  
むらびの地三所の本地堂ありやわづらんとせん

慈眼山成願寺

成願寺村にあり天台宗福徳村聖徳寺より奉勧ちり行基井作の十二  
面板を奉寄り大伽藍あり今衰微し今神堂の跡より舊  
の頃の古跡あり今散りてあり信長公の近習書記の役を勤り又弓鎗六人衆とて武後一人と名をとり又助とて  
信長公の近習書記の役を勤り又弓鎗六人衆とて武後一人と名をとり又助とて  
の頃常報を著し成長し壯年して還俗して武將となり軍四も領す且筆記とて  
天心記九巻と著述す又信長記十五巻をつりか後に小出南庵著撰す其外関ヶ原軍池  
田傳等も撰り

味鏡村

小牧街道の村ありて 国君御泰府御降國号本号跡を遺りてその官道より農家  
中むより鏡の字と鏡に誤りて沙石集の尾張國味鏡と云所とあり 康正二年造内裡段  
錢兵因役引付に十貫文玉泉寺領尾州味鏡分段錢と云りや 諸書に誤りあり 尚村天  
永寺の古縁起に鏡の池と云り味鏡山と名づけしや 附會してかきとあり  
それ世の人多くまじりたりと 國君源明公よりおぼやうなりやひてかきとあり 復すべ  
しと命すいふおぼやけやも私も其まじりたりと云りけぬ

味鏡神社

味鏡村にあり今 延喜神名式に味鏡神社本國帳に従三位味鏡天神  
と見えり官社なり奈井の大日靈尊日本武尊建角見命天兒屋根命  
武甕槌命 譽田天皇の六所なり  
神要殿拜殿鳥居あり本社白山社神明社金毘羅  
社神宝太刀三振鉾四本鏡一面弓三張あり

例祭

八月廿九日味鏡川の洲にあり神宿院へ神幸なり其次才の神獅子旗鉾弓矢と持行次に子  
供苗を鼓めて踏歌と真似たり各町甲と着次ととて代伶人とて神要の海より若き者  
陣羽織と云り兜鑿頭中と云りて三人陣羽織の者一人供奉す馬に引せりて非幸還幸なり  
ては各馬場より跨射あり夫よりまぐくの曲馳と云り味鏡山に法社神形の杖と云りて 敬所と云事

味鏡山護國院天永寺

同村にあり真言宗 文明十二年の天永寺縁起に 鳥  
羽天皇之御願西弥上人之草創天永年中開基也蓬萊官之末  
社六所明神鎮護之靈岫瑠璃界之本主十二願王接化之梵場也と  
見えり味鏡神社の法信なり 幸に疑りて 勅願寺とて

安食拍井の両庄と云

七堂十二區の僧坊儼然と古刹なり  
五百年來の兵革に零衰し山号鏡の池小附會して味鏡と名づ  
るにありと云り天正九年辛巳正月郷民議して再建しや舊刹小  
復するなり

本尊

兼所め来り 聖武天皇の御宇行基菩薩南所に奉祀ありて後  
の池の水中より某所の仏像現びて井白檀の形像と作らば像と  
中心から納り精舎と云り某所と名づけられ

寺宝

大般若經六百卷 曆應元年九月八日  
足利左兵衛督直義主の納り所

鏡池

かきより西にありて池の中  
むらびの地三所の本地堂ありやわづらんとせん

龍池

かきより西にありて池の中  
むらびの地三所の本地堂ありやわづらんとせん

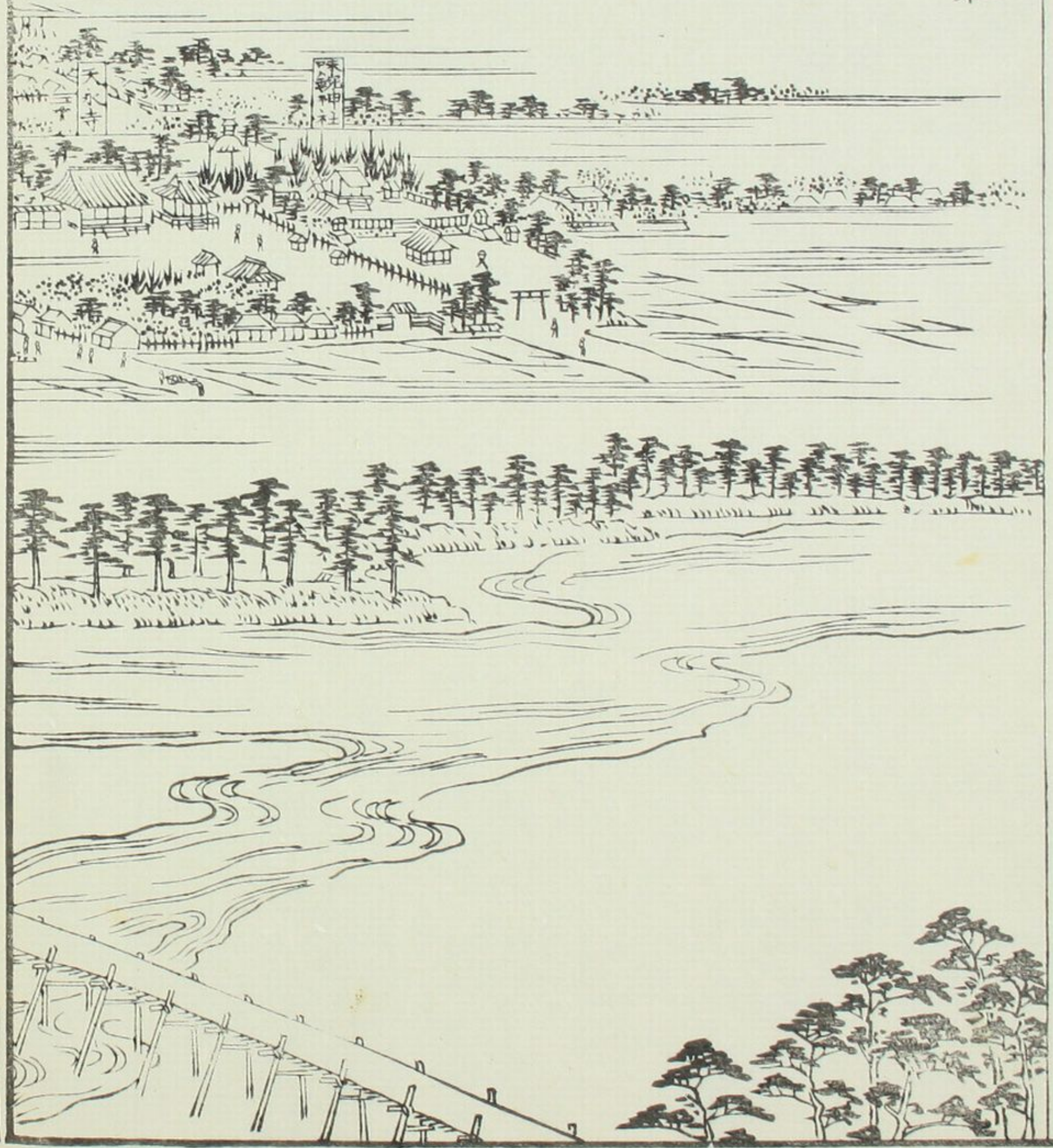
岩屋堂

寺より北の方敷所と稱しあり  
所より〇園にあり傍天澤ハある傍りて織田真紀に天澤者宗天台再闡

神主 松岡氏

味鏡神社  
天永寺  
味鏡川

水上ハ  
君ヶ敷に  
勝川の  
ふくれて



法く  
そめ  
伊代  
柳澤維賢

稲の香に  
里ハとと  
波巻う那

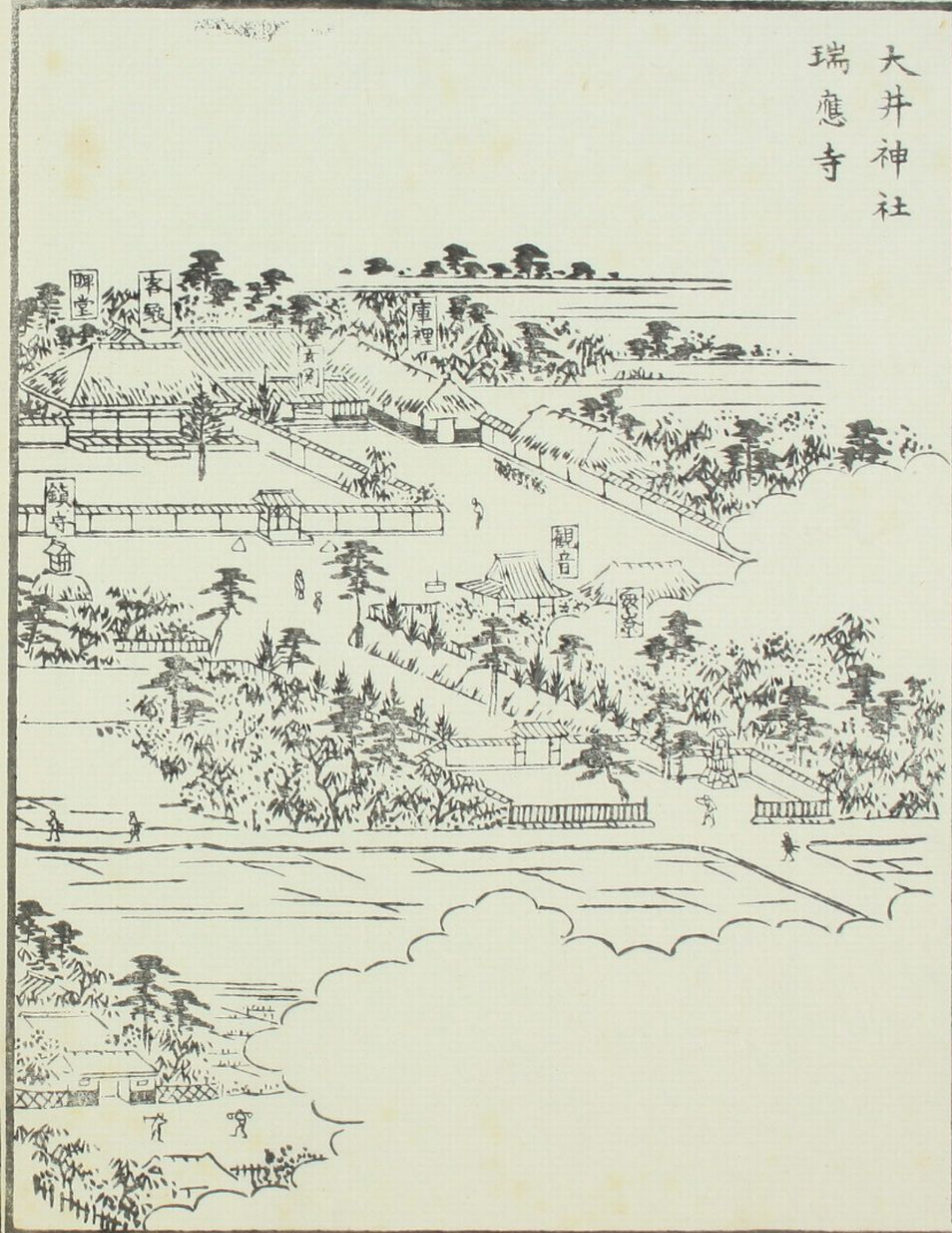
萬史







大井神社  
瑞應寺



清和の今陽...  
 又村の名...  
 長谷川大炊師...  
 永享八年...  
 石馬の...



香印

功之載天明年甲辰鑿沼南味鏡堤就其隈腹築  
五石堰自北良村距海郡之問別疏鑿  
一分則其滌川堰經大蒲沼勢兩後勝川水潦頭  
減其半往昔五條川於塞八屋村會內川故其潦  
沂五川又塞內川口于纒隔一堤歸于海而群  
于新南莊內川二派須一會五條川下  
色村免災三新川二每巡視與里正仰士博君  
治水之功且嘆星霜之久壯者今習安而無  
知免災之功且嘆星霜之久壯者今習安而無  
君之壽考乞為生碑傳後世予謂漢董調除須昌  
令多異政人為之碑傳後世予謂漢董調除須昌  
君勒碑使人不忘其惠澤夫加藤直達為副量  
專掌治水又使造幅武藤原直達為副量  
水利相與戮力造幅武藤原直達為副量  
蒙恩華事功遂成焉君保壽至是以  
良隄上作頌其功遂成焉君保壽至是以  
充文允武定天所啟為瓜為牙  
銘心禹貢維治之砥呼士博君  
慕若父母委質張州不群商羊宮  
陞大司農望邁等傳修策河渠  
老安散官農逾事卓爾遂以舊功  
底平安治績與立武事治卓爾遂以舊功  
殿功殿壽與頌與嬉丕々懿德  
永在生碑

洗堰

此堰之患甚矣... 天明四年 源明公之命... 奉て水止某工夫... 新川と派別... 暴水と通  
古城跡記に依り内藏助成政城跡今此地有禪刹焉長壽山光通寺と見...  
其ノ下流小舟... 村ノ安穩ハ廢活... 洗堰ノ... 故村ノ者水止其... 其ノ大...  
長四十間ハ... 五合目ノ... 大蒲沼... 新川と派別... 暴水と通  
其ノ下流小舟... 村ノ安穩ハ廢活... 洗堰ノ... 故村ノ者水止其... 其ノ大...  
其ノ下流小舟... 村ノ安穩ハ廢活... 洗堰ノ... 故村ノ者水止其... 其ノ大...  
其ノ下流小舟... 村ノ安穩ハ廢活... 洗堰ノ... 故村ノ者水止其... 其ノ大...

水荳士博君治水碑  
愛智春日井郡中有二川其源一出濃州土岐郡是  
為勝川一出參州加茂郡是為海和四年丁亥七月  
內川其川蔡田莊內而歸于海明和四年丁亥七月  
市郡水傾盆水潦行溢猿投山谷隘溺而後愛智春日井  
二郡慶決壞安屋宇八年巴女八月水潦復至衆民昏  
隄防慶決壞安屋宇八年巴女八月水潦復至衆民昏  
整明公特命駕視民疾苦而深憂之使參政人見  
彌右衛門公特命駕視民疾苦而深憂之使參政人見  
免士博君專掌治水之功且嘆星霜之久壯者今習安而無  
比良邑大蒲沼水會合于此以其事精覈水行施



多し其夜近き山より御壇より後出でて山陸おびよりに其わりの思ひも  
所す埋没して大海より今荒井森坂のありはりの今切の海屋より宗悦言  
と後と所と通ける者命と助けられ宗悦が告い書林の加護もよゝといふに  
よゝといふにねる曲に波が名とよむ水元の悲はあしといひ信之をよゝといふ  
もあやまき流してつむぎけと俗俗の文いけはよゝいふ  
よゝといふに連ふに多き言 坊元もけ一法有り

小高園天神社 小高園村のあり今白山と称す本國帳に從三位小高園天神と名を  
手巻に云高田寺村白山大明神ハ大同二年建立といふ社人ハ町田靴履といふ古昔面三ツ  
あり尉大飛出小飛出牛王板に老先七癸亥年九月九日銘あり然れども真偽洋々  
元年建立といふ是津宮もうさ

瑠璃山高田寺 目村にあり天台宗中密院未大同年中傳教大師の開基といふ七堂十  
珍まり二王門空塔觀音堂港橋もいふ詠うくありてあるの落い今名古をの万はりに  
ありありハも多しといふ今退燒といふも某所の落ちハ傳教大師の作十二赤  
将ハ安阿弥の他い

大雲山平田寺 九坪村のあり曹洞宗 ありハ平田村の領主平田和泉守 陸瓦  
白坂雲兵寺末 ありハ平田村の領主平田和泉守 陸瓦  
豆守 香火の道場ありといふ天台宗ありといふ慶長九辰年快岩和尚再  
興一其師居雲和尚 本山雲興寺 十四代の傳い 今ハ宗に改むはれ  
位牌ありハ平田寺殿前和泉守麟岳宗竜居士といふ快岩ハ其頃

道徳のすくわく寛永三年雨と祈り字の書自作の淫曲小詳

あり○本尊 阿弥陀の本像 鎮守 黒池竜神高田寺村の竜神と雨乞の後勅清り

池と湧小点とついで宮を建上天下界の竜神と勅清りしなりち竜天と名付あり  
佛法の守護神と未代まどももついでついでついでついでついでついでついでついでついでついで  
黒池竜神 謡曲一卷快岩和尚自筆あり奥書ハ曰是竜神教化之書也非狂言綺語雖  
不可為證未代之世俗參禪學道難至踏故成誑之念意謂口今生慰來世之便菩提種  
衆生成佛之可為直道是方便之說也下村宗利入道章句付申候子細致注候得共長  
敷故與書如此三輪持神轉口立田ハ紅紫ハ神轉云此謡雨ハ竜神之可為全射者也 水  
毎月五日 我法ハ身世こむり黒池の傍のま川風うらあざむび  
快岩義雲といふ又自筆の板本も稱いハに中法ハあり 黒池 平田の東方又地  
て長き池ありされど近より九の隣の黒池といふなり定永三年の夏天下大に旱りけは  
快岩和尚農人のありハあり又 國命を奉りて六月五日隣邑久地中村の黒池小位む  
竜神に血脈と授けり祈りなるに即時ハ大雨降りて因内よりハ万民のよろこびあり  
快岩といふ其年を淫曲に作りて下村宗利といふ者に章句の曲節をつげて諸人かうて  
ついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついで  
より大雨降りて淫稼穡うるわし万民悦ぶるに作りて君山翁の戯の小手巻に黒池の事  
とついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついで  
より大なる系云村民定永年中に勝他といふ所より二間ものあや御の蛇と教す其法と而  
よして大なる烏蛇といふりのわくく久し病に卧しついでついでついでついでついでついでついで  
も位

月峯山松元院 目村にあり曹洞宗因平田寺末中世の信僧連分と傳い一人として永

九坪松元院に趣けり春と逢り夏と逢りついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついで  
あはれ別と日を逢りついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついでついで



平田寺  
林證寺

到平田寺

月坡

僧訪僧房直入門推  
敲今夜兩空論他時  
錯問平田路稻熟秋  
風一樣村



声なき門  
う那

十所社

目村あり 伊勢春日八幡の熱田の七社と云ふに十所といふ永禄二年古所の説  
葉田出羽守幼清に社あり 熱田為磨華の哥仙あり 例祭八月十九日 祠官鈴野氏  
仲村にあり びりハ古より任儀の分り 往きあり 旅人此社の茶をく下馬  
山王権現社 此れハ神の祟りあり 思ひて思ふ事 和泉の蟻通の神のや

菅天神社

宇福寺村あり 福永二十年修造の棟札あり 夫より以前創建の年月詳し  
菅天神社 菅天神の産土神あり 例祭八月廿五日 社傍天神山真福寺菅洞宗三圓正  
眼寺あり 康正元年 正眼寺三世天光和尚の岡基より 高提寺より 大伽藍あり  
菅洞年中は所あり 今この号に改む 天光和尚菅原姓あり 道實の末裔といふ  
法成寺廢址 法成寺村にあり 天台宗の梵刹あり 八竜山法成寺といふ 大地あり 後世廢  
大なる寺堂と都都の遺跡のあり 法成寺といふ 法成寺の岡白殿し

徳重里

一余禪岡兼良公の領あり 生田の里といふ 桃華葉葉の終り家領  
徳重里 其敷地等之事あり 余に尾張國徳重保普廣院贈相國初所宛給也といふ是  
生田山林證寺 徳重村あり 一向宗東流の内陣一家あり 高きあり 天台宗より 丹羽郡  
内陣あり 高きあり 改む別名と宗とあり 徳重村の西に生田主水といふ 川中島大合戦  
の戦世と持て光昌と名の諸公と編歴あり 一ひふあり 来り任職あり 高きあり 年中  
神君今津津征伐の御陣又築あり 教上人下向あり 大軍に犯されしやまれ  
けりと光昌後ひ居あり 林のりあり 伴ひし 茶を奉りて上人を公抱せし 忽ち彼寺に  
海の板の竹名と林昌坊といふ 其後寛文二年 今の所に移すといふ 河津院末の裏  
書に文龜元年三月廿五日尾州丹羽郡 生田道場といふ 冥室教品あり 畧依

志賀田天神社

源田村にあり 本國帳に従三位志賀田天神といふ 曰社あり 今ハ三徳寺新宮  
三町あり 福あり 所にあり 寛永年中 今の地にあり 其地の地を今も十二社といふ  
は後当所の修を奥位集人の大口右京進社と修造し 大口の中を那の地名と神名  
式又本國帳等に大口の神とのせめ 奥位集人の古治文あり 大口の名をて 古里とい  
ど今ハ其地をて 奥位集人の地名と苗字に名のあり 人あり 其所に修造  
ニテ所あり 一ハ大口右京進一ハ奥位集人のいふ人物志に或衛家歴下の士と花也其項  
三河の志居尾形に奥位集人の奥位一對あり 勇士あり 例祭八月廿七日 末社又王社稲荷社  
天満宮社 白山社 塩竈社  
多あり 祠官廣瀬氏

鹿田山仁昌寺

目村にあり 曹洞宗三圓正眼寺末より 天台宗より 後為宗に改む 親善堂  
村仁昌寺 親善堂昔ハ天台より 曹洞宗より 山翁の妙の山を巻に春日井郡 鹿田  
頃正眼寺 天山和尚と撰む 宥りけし 高勅止む 一ハ乗ちを替りしと  
云し 志居

訓原神社

井原本村にあり 栗原天神と稱し 延喜神名式に訓原神社 本國帳に従三位  
訓原神社 訓原天神といふ 古社あり 延喜神名式に訓原神社 本國帳に従三位  
と集説あり 考あり

熊野権現社

熊野村にあり 此の号と熊の庄といふ 其号の起る本所あり 古社あり  
熊野権現社 熊野本宮より 隣村鹿田村の熊野社と稱し 移改む 大地あり  
とあり 末社 神明社 浅間社 荒神社 等あり 例祭九月十五日 村童馬上あり 供人 三河小  
行列あり 流馬の多あり 比奈依て 仰り 末は人々 事にむ けり けり

熊野権現社

熊野村にあり 此の号と熊の庄といふ 其号の起る本所あり 古社あり  
熊野権現社 熊野本宮より 隣村鹿田村の熊野社と稱し 移改む 大地あり  
とあり 末社 神明社 浅間社 荒神社 等あり 例祭九月十五日 村童馬上あり 供人 三河小  
行列あり 流馬の多あり 比奈依て 仰り 末は人々 事にむ けり けり

熊野権現社

熊野村にあり 此の号と熊の庄といふ 其号の起る本所あり 古社あり  
熊野権現社 熊野本宮より 隣村鹿田村の熊野社と稱し 移改む 大地あり  
とあり 末社 神明社 浅間社 荒神社 等あり 例祭九月十五日 村童馬上あり 供人 三河小  
行列あり 流馬の多あり 比奈依て 仰り 末は人々 事にむ けり けり

熊野権現社

熊野村にあり 此の号と熊の庄といふ 其号の起る本所あり 古社あり  
熊野権現社 熊野本宮より 隣村鹿田村の熊野社と稱し 移改む 大地あり  
とあり 末社 神明社 浅間社 荒神社 等あり 例祭九月十五日 村童馬上あり 供人 三河小  
行列あり 流馬の多あり 比奈依て 仰り 末は人々 事にむ けり けり

熊嶋山日光寺

同村にあり昔洞宗若倉村竜潭寺未往昔真言宗より中世今の  
宗に改むるを夫六の阿弥陀行基井の作らるるに依りて  
因かちの女んううに依りて行基作の夫六の阿弥陀七佛り今中世郡所々に依りて  
て一併ううに依りて一併りて世の時かりて依りて依りて依りて依りて依りて  
聖武天皇の建之る所に依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて  
今其山ありて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて

牟都志神社

六所村あり  
延喜神名式牟都志神社本國帳小正  
四位下牟都志天神  
一作  
尼々官社

萬松山常安寺

豐場村にあり曹洞宗  
永享年中明谷義光禪師  
の創建ありて衰微小及びい當地の領主溝口富之助  
九月九日卒  
其父藏田居士の菩提の為に大永四年甲申六月再  
與一田地と寄附一且肥後國河尻村小ありて釋迦阿難迦葉の  
三佛像と永樂錢百貫文少て買取り當寺の本堂と次是天竺  
の佛工毘首羯摩天が赤梅檀の香木りて刻しるる像ありて  
京都嵯峨の釋迦と同木同作あり當寺の像ハ木の根の方少て  
作りしるる俗小豐場の根釈迦と稱し海内に比類なき靈仏とて

吟峨の釈迦のや他所一岡帳小出奉らびしるる牟都志は忠  
灵異ありて動座しるる近年位信他所も靈性見しるて後  
一奉るに其期小及びしるる像磐石のや重くあり其事に依り  
はか者これ大病とてけて悩む其しるるは恐むるやにける  
○本尊  
由來と委しるる漆書しるる傳へ  
迦葉池  
本尊ありて蓋の底の由に  
ありて蓋の底の由に  
ありて蓋の底の由に

鎮守

白山権現其外秋葉社金毘羅社  
鳥羽沙摩明玉堂等あり

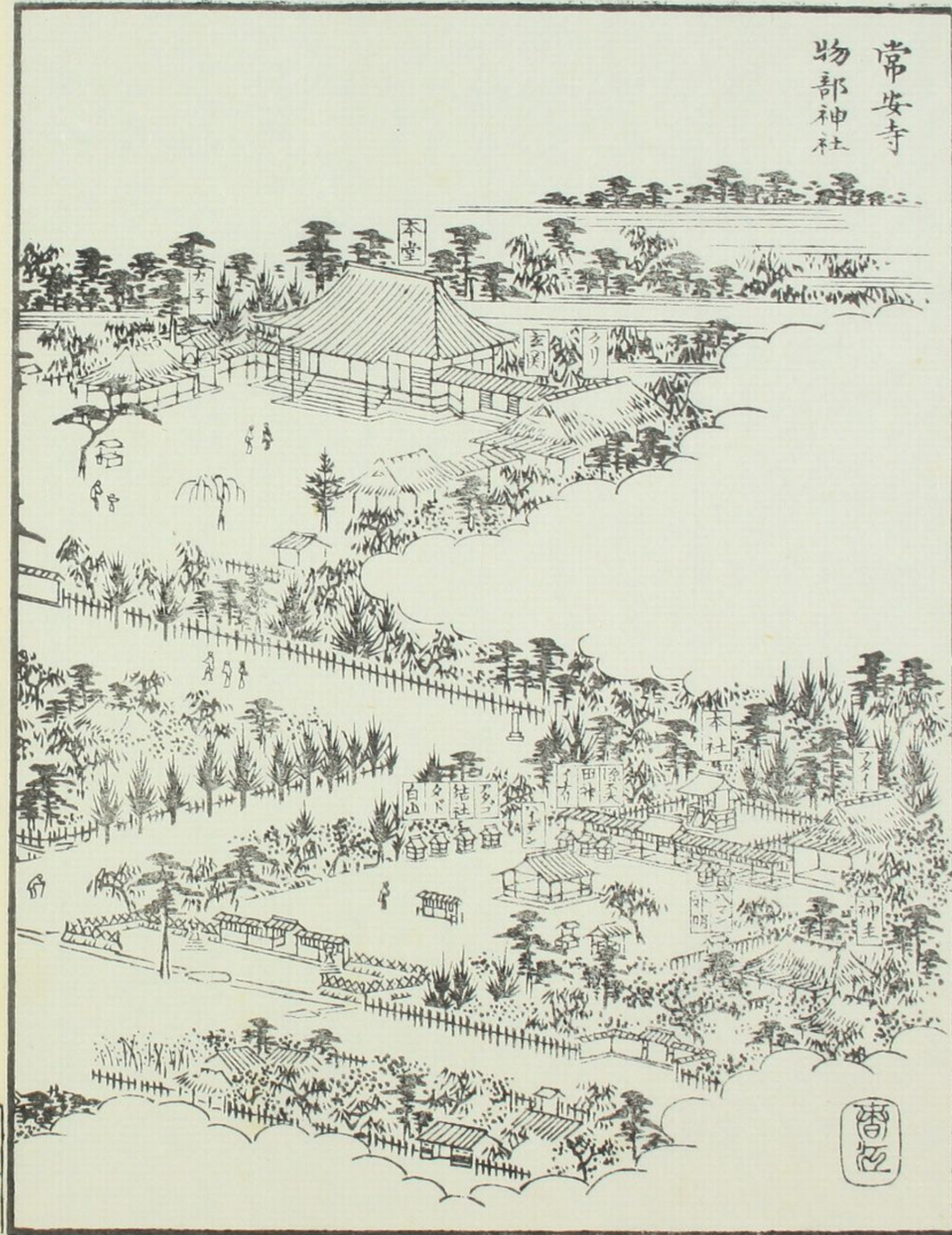
物部神社

同村にあり俗に  
延喜神名式小物部神社本國帳小從三位  
物部天神とあり社あり境内廣く拜殿瑞籬祭文殿神門鳥居  
等巍然と立ちしるる社も多し

源太夫社多度社神明社白山社八幡社天王  
社愛宕社稻荷社富士社御田社等あり其  
内天王社ハ溝口富之助勅清とありて例祭六月十五十六の吉日御燈車各浦より境外  
末社無雙社ハ同村西の表より富土社ハ同村青塚にありて古き像ありて古き像ありて  
社説る物部神の陵とありて傳へる古き津陣の傳秀吉公の軍士が依りて古き像ありて古  
軍の後公自ら依りて塚小登りて古き像に依りて古き像ありて古き像ありて古き像ありて  
神木  
今に其神社内にあり



常安寺  
物部神社



香印



春日井原

味淡村のわの... 一条に其地甚廣く味淡系勝川系あり... 春日井原... 我... 我... 我...

西行堂土橋

小牧街道を春日井原村のわにあり... 西行法師の本傳と... 西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

色尚對慈容淚濕襟

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

西行堂中興志... 西行堂中興志... 西行堂中興志...

明神もあちの如く  
例祭八月廿日

坂庭神社 坂庭村ありて 延喜神名式に山田郡坂庭神社本國帳に従

三位坂庭天神とあるなり 古くは坂庭村の西の方面にむすの山田郡の

長くうへに北と春日部南と山田と伊奴生 大乃伎 杉林のありて春日部郡界の西へ  
夫よりわの味遠外山牟都志野 大志賀田 今多氣 杉大等 式帳和名抄に春日部の  
うちに入らざり夫よりわの北のふりて坂庭村に式此の山田郡と云ふにけいん  
流りて春日部の坂庭と山田の坂庭と別地なりと云ふなり今坂庭と云ふ村名外  
ありては村民のいひ傳ふるにありて

多氣神社 大氣村ありて 社傳に祭神伊弉册尊なりと云ふ延喜神

名式に春日部郡多氣神社本國帳小従三位多氣天神と云ふ

たの官社なり 多氣の清玉に多き地多うれど伊弉の郡名と云ふりてタケと云ふ

て元 未社 早王社 弁財天社 例祭 八月 廿日 神主 加藤

尾張神社 小汁村ありて 延喜神名式に山田郡尾張神社本國帳小従

三位尾張天神とのいふ友はなり尾張氏の祖神天香語山命と

大己貴命と云ふ合也なりと云ふ舊事紀の天孫本紀より新撰姓氏録

等に尾張氏の本源の神とのいふ此香語山命と曩祖と云ふなり尾

張と云ふ國号の起まるる郷にれどは社と云ふなり大社と云ふに

くましくと連年の兵乱小衰微と云ふなり小祖と云ふなり

つらにびり祭器と云ふなり土器田と云ふ地も跡なり又鏡田直會油

田ありと云ふ字も跡なり又社の南のくに政所の舊址も存せり

坂庭の家にしるしと云ふ山田郡に 元より古村の國の中央の地にて國号も此地と

云ふなりと古人の説あるに式内社のいふ地ありて疑ありと云ふ

神主 江崎氏

栗田三所地神社 田村にあり本國帳に従三位栗田三所地神と云ふなり舊社なり社説

命の三前と云ふ神と云ふ三所の号ありて毎年八月十日と云ふなり尾張神社の

名目と云ふなり古社小三月の修造ありて今此社に三月堂の字ありて彼所傳に

栗崎氏祕方保童圓 山汁新田栗崎氏を製止るなり

代一子お侍の祕方なりと云ふなり知徳池の地ありて其の胎毒毒藥なる此

車建ありて持後半遠の地ありて又いふ名居なり持後と云ふ附の西願なり



二月十五日と彫付しつゝの頃より彼寺に藏せしや今ハ知れず  
元亨釈書曰釋戒深尾州賢林寺住僧也五十年餘不出寺門日夜讀法華又感求舍利一日  
庭上現舍利有音如雷色明白深試以鐵錘擊鐵砧上俱陷而不碎又投水不沉深報供養  
刺佛像安其中命終時向此像端坐結印鉢阿彌陀而寂數日後身不爛壞跌坐  
儀然州人哀惜建廟闕之と云々本朝高僧傳にも其人の傳をのせしむ  
三十三所の一所として多岐多し

青松山正眼寺

三河村のり曹洞宗  
能登國德持寺末

中島郡下津村のりして禪宗近

國の總録に次應永元甲戌年當ふの領主青生直正

寺傳に直正ハ  
尊氏將軍の三

男直冬の曾孫なりしと云々年歴もたひま交もわらば張州名勝志に青生尾張守直  
政源尊氏親族尾陽侯修理入道家貞子尾張守尊常斯波武衛是也とありに  
尊常と諸系國ハ高経と云々當國守護武衛家の先祖なり當ちに位牌ありて正  
眼寺殿源朝且前尾州太守青松直政大居士と云々其裏書に尊氏次男直冬子  
青生尾張守直政とありハ後人  
の書かへともはらふ  
後小松院の勅許を得て草創し中島郡  
下津の郷金剛山傳法寺の廢跡と再興して堂塔伽藍と營々青生  
山後青松山  
と改む正眼寺と名づけ通幻寂靈せんま禪師と開山して天鷹てんとう和尚  
を住僧と次天先和尚ハ三代の住職あり傳法寺村あちのりし地ハ  
下津々の内なり  
水潦の害ありて住僧修りの煩ひ多うりけし元祿二己巳年今の

地ハ移りて天鷹禪師ハ加賀國の人俗姓ハ後永氏大職冠二十一世  
の裔孫實親さねちかの後うりて幼年して出家し通幻和尚ハ徒ハ洞  
家の玄旨と究む五十七歳して東國托庵のつゞに當ふに  
うが領主青生氏道德と号信しとて當ちと建ちあつたり  
かくて應永十九壬辰年四月青生直政卒し其翌年正月二日天  
鷹和尚も寂し是道元禪師五世の法嗣通幻寂靈の弟子なり  
其頃ハ寺境十八町四面ありしと云々三世天先和尚も大徳して學  
力衆小勝と當ち又雲鳥寺に手跡多く跡とり其後長七  
壬寅年 性高院君天澤和尚ハ命じて大殿を新造しつゝ夫  
より天澤の法嗣樹林和尚五百羅漢の像と造り山門と修造次  
かくて元和年中天山和尚山門と改造し殿堂と修補し又門前  
小大路と稱さ三百六十間がたぐあ例に並ねと裁て萬松閣まんそうかく小擬  
青生山と改て青松山とす 國祖君と云々當ちに来歴し終日

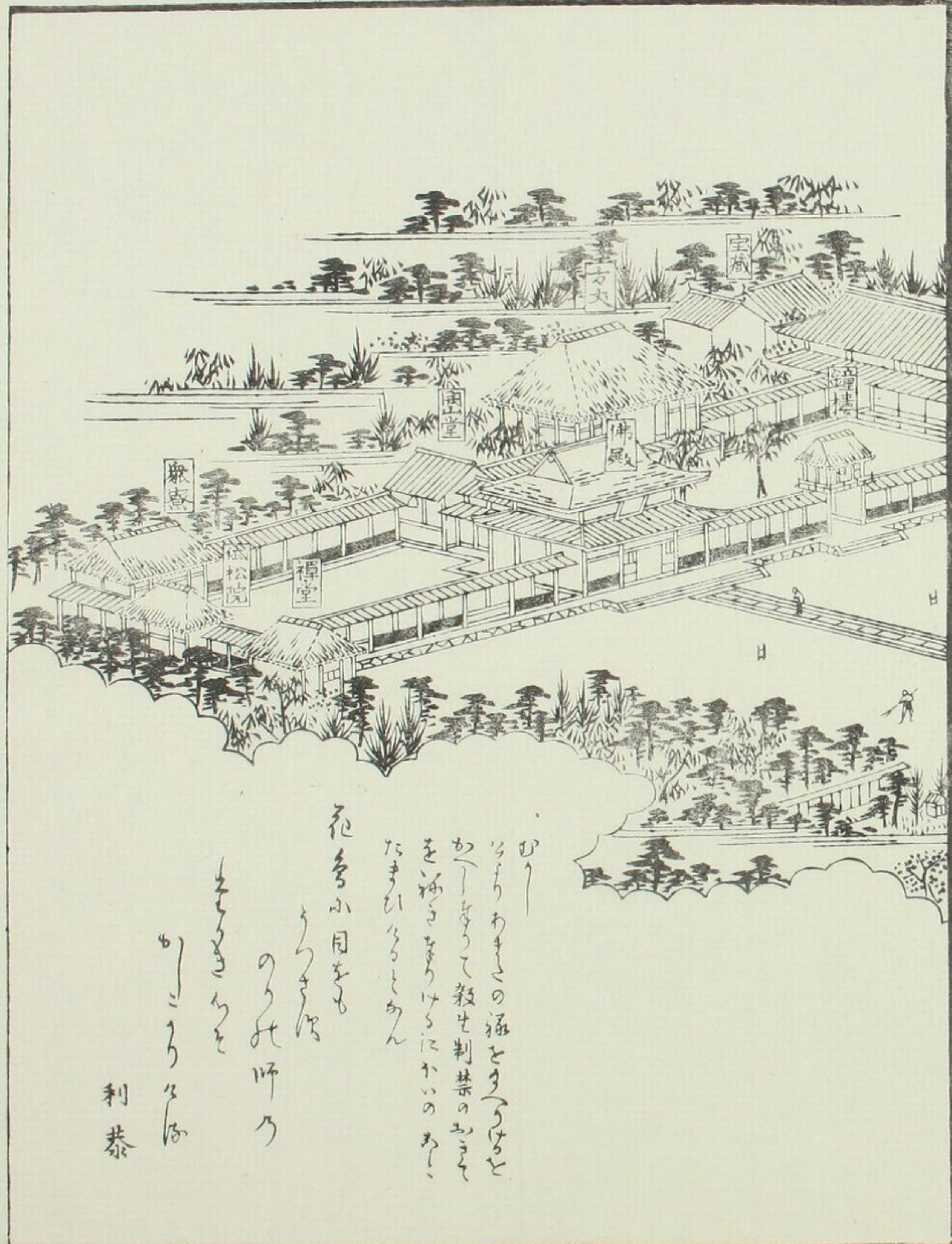
和尚と淡笑し、其郷を去り、土芋と皮のまきや、こき奉りし  
 とき、つらばし和尚紙子と号し、馬ふりて他郷へ行しを  
 公御鷹馬狩の途中、こころにんまひ何者あるぞと問へり、  
 うい、和尚馬より下津の正眼寺となし、に名のりてるふけり、と、和  
 尚の道德と慕ひ四方より来、湯まるとれ多く齋堂を、  
 軌則とまにたり、わたりけし、新に造作を加へ、を廣大  
 した、寛永十七年庚申佳雲恩陵和尚小寺務とむぐり、その  
 ち、海西郡赤目村に退隱す、其地の領主横井時安和尚の  
 悟道、發明する、小帰依し、一心寺と建て居し、檀那寺とい  
 七年と経し、正保二乙酉年八月十八日寂し、臨終の時、其身の真  
 像、小顯す上々紫衣、鷄寒上樹下々紙子、鴨寒下水との高致、  
 のび、恩陵もまゝ大徳のすえ、わたり、正保四丁亥年九月廿八日  
 永平寺の良頓禪師、旧例より状と下し、僧綱し、且、苗ちと

正眼寺大門

劃斷紅塵地亦幽老杉  
 蒼鬱表靈丘殿堂廊廟  
 森然列傳脈永平冠一  
 州

百信





花寺小園を  
 うらやま  
 のうた師乃  
 ともききんを  
 けいこりなほ  
 利恭

其二



登臨正眼寺行  
 拜白毫光祖心  
 真面目清風時  
 地香  
 德瑞  
 雲脚隨風兩  
 脚升祥庭秋  
 景晚天澄長  
 松陰靜無人  
 過落日門前  
 掃葉僧  
 秀蔭

見小池了  
 山門の  
 言解  
 呂川

尚玉の録所洞宗一切の事と掌らじ翌年入滅す終り小幡  
 て南陽嫩壽和尚と後任と成慶安二巳丑年 嫩壽雲貞寺の  
 嫩泰和尚と本末の淪起り僧録訴詔公裁に及びしが終に尚  
 小利と云雲貞寺と永く尚ちの末寺とあり是尚ちの面目  
 〇佛殿 應永元年の奉創山門方丈多目ト 衆寮 正保二年恩陵  
 三年の建立浴室廻廊等同ト年の修造大港ハ 禪堂 大方丈 山門 庫裏 小方  
 西保四年 十月 湯 銘小見し  
 丈鎮守 白山推現其外伊勢宮とあり 寺寶 永年中下津川の五輪が淵より  
 引揚し其佛より黄金の鑰石と見分んし鉄槌りてに像大さき声とあり  
 ければあちとてあちとて附せしといひ佛の胸間に槌の痕あり 貞松院君びてお  
 みまひも信のあり有り作せし宝教とつし納りおく秘佛として一年一  
 の重華舎にのり開録とあり 諸人にあせむ 涅槃像唐画一幅長二間横一丈文  
 禄年中朝鮮征伐の時貴志善吉とありの被地より鏝槌にりて携へ来り尚ちにか  
 附りしと云彩画の精密凡工の画く所あり 竹篋一握唐竹とて作まり節の洞三尺ぐり  
 ぶく 〇成正覚観音の像定朝作の竹篋一握唐竹とて作まり節の洞三尺ぐり  
 〇九条袈裟一領ハ開山の老物室内に納りてあり 〇梅鶯の圖の硯  
 一面京都道正菴ト頃の寄附ト頃の先祖道正とて人道元禪師小幡より宋国より  
 後り帰朝の後も禪師に給仕とて名に道正の牌ありあり 〇靈芝盆ハ天山和尚  
 の時 國祖君一燒芋と感りてさげしうつハ其後 國君よりせらるる節ハ必ず  
 盆に登りて焼く例式とあり 〇僧録免許の狀教通制札教扁の觀音妙懺梵網經二卷

天先和尚の筆にて 應永庚子四月廿一日書写の契書あり 〇華嚴經一卷天神名号觀  
 音名号ハ天先和尚の筆なり 〇維摩詰像雪舟筆 〇花鳥画古法眼元信筆又出山  
 釈迦妙音辨財天像も元信筆と云ハ唐画の山水花鳥佛像ハの古幅多く断例記  
 正眼草鼎集等の古記録信長公信雄公と云ハ其外の繪狀制札ホ奉りて  
 寺領 〇永禄五壬辰年三月廿二日信長公田圃若干と寄附ありと天正七巳卯年  
 津田左近冠掾一徑巻と燒佛像と廢一己が治家とてハハも信長退散と  
 〇成松院の周圍とてハ信長公に懸祈せしあり 〇中兵部大輔吉政秀次公の命とてハ天正十年八月  
 九日より同十年の秋又散失とて田中兵部大輔吉政秀次公の命とてハ天正十年八月  
 進一文禄年中秀吉公も頗の朱印とたまひ 〇性高院君神朱印とありハ  
 〇今に 塔頭 盛松院 二月二日ハ曹洞諸山の大家集令とありハ  
 延持寺 一仲菴 二代忌 二世天智和尚の大法事とあり又ハ日山門佛の五百  
 羅漢とあり  
 小牧驛 名古屋より本宿迄ハ馬継とて善師登土田とて伏見宿ハ  
 通次町登りて農高町とて杯休泊の旅店多し 正事記に昔ハ  
 小牧山の南の麓 今元小牧 小わりけと 國祖君山より東の原に  
 一街道とつげ智並松と植せり今の小牧宿とあり  
 小牧山 小牧驛の西にあり一名と飛車山と云ハ松捨竹を生長く四内裏の色とありハ山平  
 系の地に都立しハ松捨頂より園中と馳せり風系なきハ大和の香具山ハ後山に彷彿し

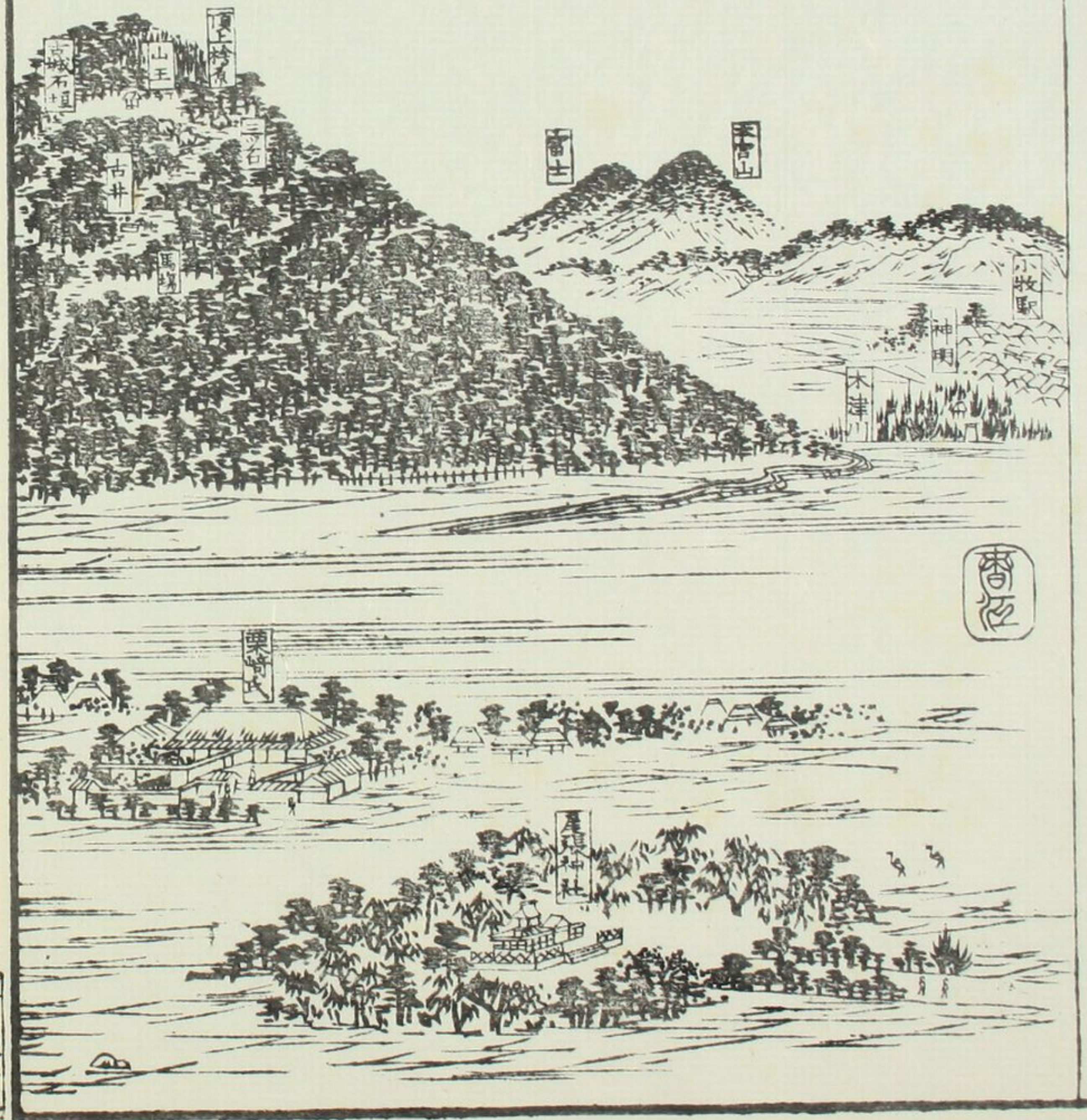




小牧山  
尾張神社

智照雖工本  
不經豈却神  
算有儀聖儼  
然牙帳留芳  
蹟一凸孤山  
萬古青  
高木當友

牧野真成小  
牧山萬旗東  
去樹如烟而  
降泰誓無人  
記唯屬樵歌  
百幾年  
服部牧山



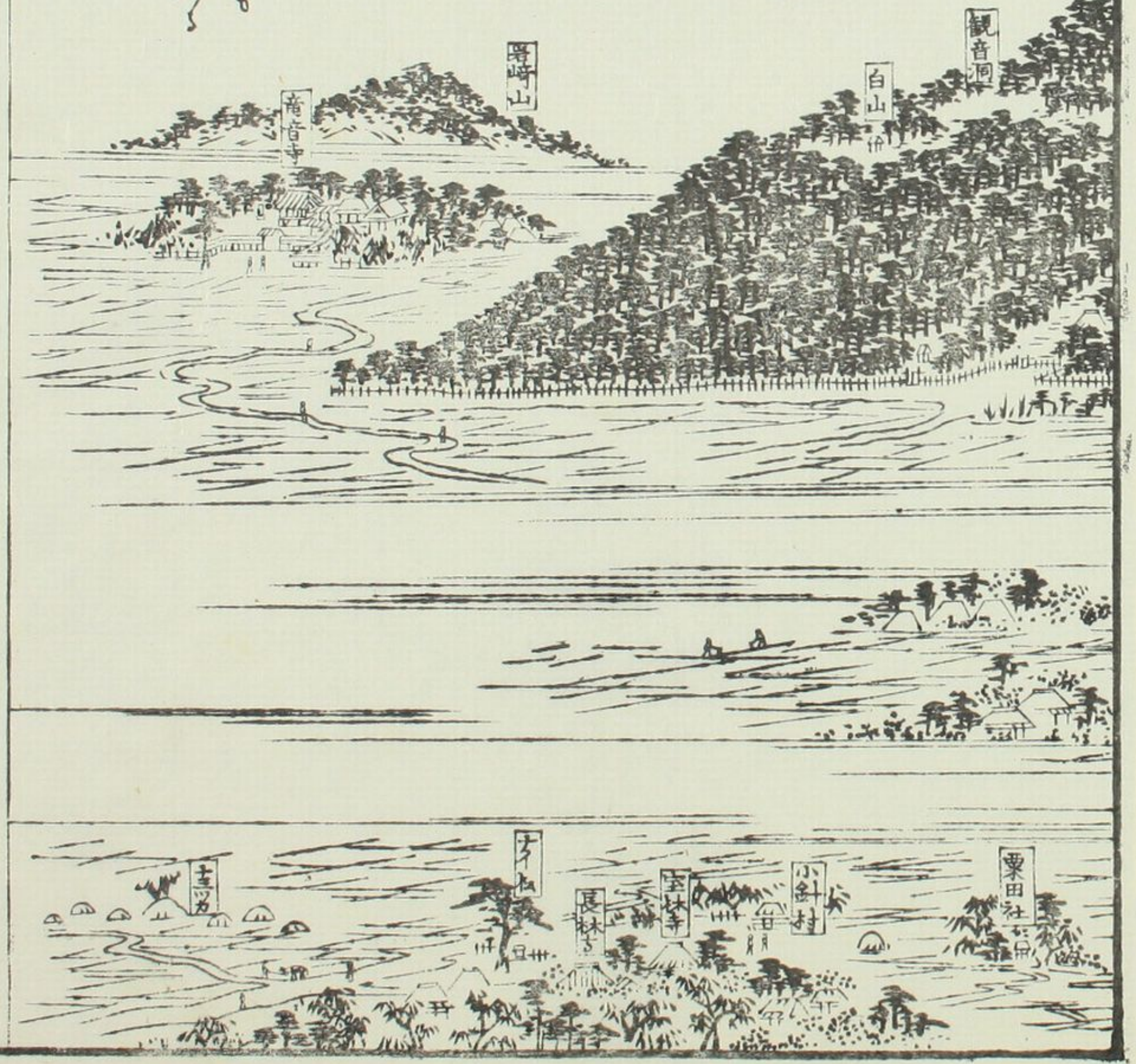
香印

一舉義兵壽域開猶看  
柿色止雲隈川通南海  
如流練山在平田若覆  
杯綠樹相交常露群  
峰遠阻獨雀鬼千秋萬  
古甘棠德長對而城是  
盛哉

江崎惟孝

龍音寺

家にしんりあまの  
まこといつまひ  
りつきてる  
啓



神君の御本陣と定めし、其御軍御心のまに勝利ありし御  
 吉例、よあ、御山あま、國祖君と、御代、其旧地と、  
 今も御山のまに難人の入幸と禁、よあ、御代、其旧地と、  
 忌諱多かれ、碑文に、  
 今も御山のまに難人の入幸と禁、よあ、御代、其旧地と、

諸馬後銳成旋開陣使聽池秀自信衆與夫小  
 軍伏 折列飾道之須留勝不兵在尾田信雄者  
 遺尸神剛與進迹賀酒入能八清州欲擊有  
 走其君連森長可揚長而高忠諸退屯城請信雄  
 一兵之勝長可揚長而高忠諸退屯城請信雄  
 戰土兵遂可揚長而高忠諸退屯城請信雄  
 而崩機長勳旌久還神次軍屯城請信雄  
 斬勝龍可力旗于矣三康川三州曠日據小神  
 首入放指督戰高陽勝夜等以守其持放山拒  
 萬軍鳥銃士 陽勝夜等以守其持放山拒  
 餘不利勢卒神出等與信三鳥兵九此秀之長  
 級衆如欲君其不聽後雄出為月三秀之長  
 神大雨衝之兵意勝軍出為月三秀之長  
 君潰窺其右瞻勝軍出為月三秀之長  
 須而左擊軍氣奮倉愴而從敵  
 更父子長可出其挫愴而從敵  
 振子長可出其挫愴而從敵  
 旅授可出其挫愴而從敵  
 與首墜其挫愴而從敵

信馳至龍泉寺而凱旋小等己敗岷岷秀吉驚而將之  
 既而聽易莫肯從馬秀吉曰詰朝擊之乃止  
 命將也班師於樂田遂引兵退于濃州伏惟古受  
 武創業之君其於大義萬勇必有不稱于天者  
 破其銳之宋而金剛也萬夫之勇不稱于天者  
 攀其雄者危難之徒也夫漢唐之英主戰而卻  
 援其義大也遠難之徒也夫漢唐之英主戰而卻  
 矣非其人聖子也而後賢受命唐之英主戰而卻  
 洪基方今子也而後賢受命唐之英主戰而卻  
 夫神哉方今子也而後賢受命唐之英主戰而卻  
 者神哉方今子也而後賢受命唐之英主戰而卻  
 北里神君之曾孫繩命綿業乃克續麟趾之萬  
 已事元祿本邦曾孫繩命綿業乃克續麟趾之萬  
 叙其孫傳祿萬一代之其緒也冬十思健不月  
 文王且獻銘萬一代之其緒也冬十思健不月  
 記之且獻銘萬一代之其緒也冬十思健不月

惟昆三威維魏之王其今三神哉人義雄麟銳之陽之班  
 非陽軍起邦然且曾事歲里神哉人義雄麟銳之陽之班  
 人推手疾藩名猷孫以元惟君方聖子也勇危難之徒也夫  
 力勇裡雷屏山銘萬一代之其緒也冬十思健不月  
 乃柏百氣蜀上太代一之孫尾孫後賢受命唐之英主戰而卻  
 代壁万吐險直守其綏戊區南太々命綿業乃克續麟趾之萬  
 天讓胸長秦下之謂述寅也而守綿業乃克續麟趾之萬  
 工功中虹潼豐也之冬十思健不月神望小三趾之萬  
 歷仁勝良剗蓬臣健不一 亟言續麟趾之萬  
 世懷入平々鳥拜音哉樹君之牧位之萬  
 具豺授失武揚瞻虎首策夫波而詩碑之功山源化有之  
 于義秀晋桓瞻駿茲烈州綱矣千歲殆天之  
 秦制吉楚々吹巖惠地而城誠于嗟之  
 于蛟卻折英擊命我畧不之公嗟之

殷周無統 魯衛守封 親賢樂利 遺澤流風  
神君之德 帝出于震 大勳什一 鐫傳無究  
元禄十一年戊寅冬十一月日 尾陽詞臣并河子健百拜記

### 神明社

同所の西にあり傳へし永福五年戊戌年信長公小牧山の上に城と後一築んて群臣  
けは公の御多し忍事おれ我は松ありして清須の清園津甫の祖父とて山上におつて并年  
と修りて遠にこの山築き且山の東のうに地と據りては社と勧清とて例祭三月十五日十五日  
山車二輛と引後すは社に今も  
清園津甫の神と云ふ

### 大壽山玉林寺

同所にあり曹洞宗岩倉禪寺末天正二年戊戌二月番禪の天洲和尚  
清子の明賢とて傳と開山して當と開創すといふ元小牧にありし  
元和九年今此地引橋とて和年中布毛和尚に傳へし其の傳の傳集金山稿にありたに  
親山様の國とて引橋とて其の傳の傳集金山稿にありたに  
まゝ當の山号其は松山とて引橋とて今改りて又境内に侶巴の碑あり

松壽山在金城西北建一樓於其上顧而見之東  
有芙蓉西有伊吹加之青河幼水映帶左右南大  
繞莫不我樓中之物矣青河幼水映帶左右南大  
海而遙豈不一大觀耶故扁曰觀山也西京霞燕  
先生自掃其景為圖以見贈布毛謝之若之  
先寫出觀山十二樓座中驚殺三千里何限山河掌  
上浮伊吹積雪寒如落芙蓉彩霞凝欲流雲樹蒼々  
連海氣類稻雁度金城秋灘聲咫尺天將雨心醉悠  
悠失去留觀々山々樓々樓上布衲已白頭木無一

### 室幢山西源寺

同所にあり一向宗東派系都本山直末大谷遺跡録に春日井郡小牧西源  
寺はもと又瀬部七箇寺の隨一なり若全に在て天台宗の佛圖  
ありしと沖門徒の子孫真宗の改めし中古小牧に移位改聖人真書の九字十字の  
名号蓮師拜寫の和讃三帖と安直とてあると云ふ

### 八幡社

村中村あり貞觀十三年辛卯五月山城小清水八幡宮とて  
ありしと沖門徒の子孫真宗の改めし中古小牧に移位改聖人真書の九字十字の  
名号蓮師拜寫の和讃三帖と安直とてあると云ふ

### 飛車山龍音寺

同村あり傳へし永福五年戊戌年信長公小牧山の上に城と後一築んて群臣  
けは公の御多し忍事おれ我は松ありして清須の清園津甫の祖父とて山上におつて并年  
と修りて遠にこの山築き且山の東のうに地と據りては社と勧清とて例祭三月十五日十五日  
山車二輛と引後すは社に今も  
清園津甫の神と云ふ

### 岩崎山

同村あり傳へし永福五年戊戌年信長公小牧山の上に城と後一築んて群臣  
けは公の御多し忍事おれ我は松ありして清須の清園津甫の祖父とて山上におつて并年  
と修りて遠にこの山築き且山の東のうに地と據りては社と勧清とて例祭三月十五日十五日  
山車二輛と引後すは社に今も  
清園津甫の神と云ふ

物以何報 一曲長歌擬暗投

岩崎山



登岩崎山別入

社盟詩載

萱克奉

空山吹笛倚崔嵬白石  
青松映綠苔花落鳥啼  
春欲暮離情難盡掌中  
杯



北人多し、鎌倉以後、山内に成居の流しつひ傳ゆ、所云あり

### 丹羽氏家傳妙劑

同村の密所して家傳の秘方あり、和室の中、留飲、舟勞、黃胖病（らんげんじょう）の流しつひ傳ゆ、所云あり、治世、成をの

### 二重堀岩跡

二重堀村にあり、天正十二年、秀吉、小牧山、敗軍して退く、此本村、常陸、少津、子の、成をの、所云あり、治世、成をの、

少津子の、成をの、所云あり、治世、成をの、  
少津子の、成をの、所云あり、治世、成をの、

### 田縣神社

文保一邑村、延喜神名式、小丹羽郡、田縣神社、本國帳に、丹羽郡、從

### 三位田方天神とあり

高野、性古、丹羽、郡に、屬する、今も、おけ、神、神、田、地の、

豐饒と守り、女神あり、里人、神傳、此社より、三町、西

の方、田、面の、字、に、荒田と、いふ、地、あり、ち、舊、事、紀、の、天、孫、本、紀、建

稻、種、命、の、條、に、見、る、迹、波、縣、君、の、祖、大、荒、田、命、の、神、名、に、負、ま、す、

其、本、貫、の、地、あり、ん、も、志、す、り、は、今、の、津、女、玉、姬、命、と、名、傳、

### 小みやわん例祭

正月十五日、男、並、形、あり、八、八、の、人、形、と、造、り、儲、り、村、民、の、多、い、祭、

### 主惠郷

上月、下、末、の、二、村、と、い、ひ、一、郷、と、稱、す、和、名、抄、に、山、田、郡、主、惠、と、り、

### 愛藤山蓮光院小松寺

小松寺村にあり、真言宗、山城、上、醍、醐、報、恩、院、末

の、半、腹、一、字、と、創、建、し、自、作、の、觀、音、の、像、と、安、置、し、り、に、後、に、觀

世、音、白、衣、の、姿、と、あり、和、音、の、上、の、白、と、あり、て、補、陀、落、乃、岸、宇、津、名

實、乃、與、流、邊、加、戸、と、あり、け、は、行、基、句、と、つ、ぎ、て、松、乃、宇、良、盤、尔

咲、加、賀、留、藤、と、つ、け、り、は、夜、明、く、山、の、頂、と、見、え、は、紫、藤、今、と、盛、り

と、聞、き、居、り、り、か、ま、ば、夢、の、冥、瑞、あり、愛、藤、山、と、号、け、り、は、其、後

兼、安、三、癸、己、年、内、大、臣、平、重、盛、國、毎、に、一、字、の、道、場、と、建、て、家、門、永

久、の、祈、祈、と、修、り、當、ふ、り、は、地、と、再、興、し、り、小、松、寺、と、名、付、ら、れ、り

寺、傳、ふ、り、り、か、く、天、正、年、中、の、兵、火、に、伽、藍、佛、像、經、典、号、跡、あり、り、

燒、失、り、僧、徒、も、離、散、し、り、り、軍、靜、まり、り、後、任、信、及、慶、法、印

仰、り、來、り、佛、閣、と、再、建、し、り、り、四、貫、に、復、せ、り、前、田、德、善、院、法、印、ハ、幼

少、の、これ、及、其、法、下、が、子、と、あり、難、髪、し、り、り、常、に、武、の、乃、と、好、

丹、羽、長、秀、の、吹、拳、と、り、り、秀、吉、公、小、佐、大、信、正、の、僧、綱、あり、り、京、都、の

丹、羽、長、秀、の、吹、拳、と、り、り、秀、吉、公、小、佐、大、信、正、の、僧、綱、あり、り、京、都、の



大山川、思権現の山内不動の滝と水係して西南の谷に  
 流る。林北の谷の敷村と竹ノ小牧の末の山南の山村と  
 西行き川と落合末の谷村の北より新川が合ふ。又児  
 権現の川、大社より比一、も谷の南、新ハコより  
 とも、流る。今も在松とつる内付街道の村其  
 廢跡あり

町奉行と勤り後小五奉行の一人として其頃法印秀吉に清くも依

山林おとね候も多付と云々 ○本尊 千手観音の像ハ菅の作と云我敷通の家に

櫻樹 天正の古樹と云 柳樹 天正の古樹と云

塔が洞 古三の空塔と云 寺室 佐雄の秀吉

寺領 兼安三年七堂十二坊と云 寄附ありて退轉天正十一年八月三十二貫文の地を

金剛山大泉寺 他之内村あり曹回宗三関村に眼も天正七年且之の建之なり

白山社 中村にあり藤本三十三ヶ村の氏社なり

非多天神社 林村にあり本國帳に従三位非多天神とあり友社なり

児権現社 大山村にあり峻険なる山の頂に法苑あり山内不動と云

尾張名所圖會後編卷之三 畢

